

地方史情報

092
2009年5月

日本中世国家と諸国一宮制

井上 寛司

本書では、日本の中世社会に特徴的に現れ独自の重要な意味を担った諸国一宮制について、これを日本中世における国家的な神社制度とする観点に立って、その成立から解体に至る過程を概観した。…こうしたいわば無謀ともいえる作業にあえて挑戦しようと考えた意図は、主要には次の三点にある。

まず第一に、各国ごとの顕著な地域的多様性と成立から解体に至る独自の歴史過程を、ともにその最も本質的な特徴とする中世の諸国一宮は、しかし同時に中世「日本国」を構成するその有機的な一環（各国の鎮守神）であり、そのことを離れては意味を持ち得なかったのであって、この矛盾した二つの側面をいかに統一的に把握するのか、そこに中世諸国一宮制研究に固有の課題が存在するが、残念ながら…その全体をトータルな形で論じたものが存在しなかった。…こうした研究状況を突破し、…中世諸国一宮制をめぐる地域的な多様性・特殊性と全国的な普遍性・一般性との統一的把握、及びこれをその成立から変質・解体期に至る歴史過程の全体において整合的、かつ一貫した視点のもとに解明するよう努めること、これを試みようと考えたのである。

第二に、…各国一宮の実態解明が進むのにもなって、その地域的多様性と特殊性の側面がいつそう鮮明となり、その分析視角なども関わって「中世一宮制とはいったい何か」がますます分からなくなるという、極めて深刻な問題をも抱えることとなった。これは、…一宮制研究そのものの抱える本質的な弱点が露わになったことを意味するものであり、その自覚的な克服がこれまた緊要の課題だと考えたのである。

第三に、中世諸国一宮制研究の担う学問的な意義、日本中世史研究の中に占める固有の位置と役割とを明確にし、そうした自覚のもとに考察を進めるといった問題がある。…言葉を換えていえば、中世諸国一宮制のどの側面に焦点を合わせ、何を明らかにするのか、その戦略目標を明確にして課題への接近を図ることがとりわけ重要だと考えたということである。

本書が、「中世的な国家的な神社制度の解明」という観点から中世諸国一宮制の問題を取り上げ、検討を試みたのは、以上のような問題意識に基づいてのことである。

（井上寛司著『日本中世国家と諸国一宮制』、2009.2、小社刊、「結章」より）

地方史研究雑誌目次速報 飯澤文夫 編

*本誌に掲載した雑誌に関するお問い合わせは、発行元に直接お願いします。

北海道・東北

◆アイヌ語地名研究会報

〒061-1448北海道恵庭市相生町179-5
ハウスオブ恵庭105 渡辺隆方
TEL0123-34-2130 年5000円

◇33 2008.8 B5 10p

第12回アイヌ語地名研究会 in 札幌

斎藤 和範

近藤重蔵『蝦夷地図』における小

樽付近の本陣屋位置 平 隆一

メナシクシュは東側を通る川 地

名の変更なるか—津別町メナシ

クシュキキン川とオンネキキン

川 三好 勲

図書・会誌・会報・論文などの紹

介



*昨年7月に北海学園大学豊平校舎で開催された「第12回アイヌ語地名研究大会札幌大会」は、130名余の参加者があり、熱心な討議がなされたとのことである。報告は、平隆一「松浦武四郎文献における空知の『アイヌ

古道』、渡辺隆「松浦武四郎と蝦夷の山—各種文献と著作の特色を考える—」、羽田野正隆「ポロナイという地名—分布図からの考察—」、基調講演として、小野有五「アイヌ語地名の平等な併記に向けて—アイヌ語地名研究の目的と意義—」であった。

わが国政府は長く、国内には先住民族はいないという見解をとってきたが、2007年9月に国連が「先住民族の権利に関する国際連合宣言」を採択したことで、ようやく2008年6月に衆・参両院院全会一致の決議により、アイヌ民族を先住民族と認める内閣官房長官談話を出したところである。しかし、1997年に、過去100年近くあった差別的色彩の強い「北海道旧土人保護法」を廃して、「アイヌ文化振興法」を制定しても、アイヌ文化が尊重され振興されることはなかったという。その象徴的なものがアイヌ語地名である。

小野氏は、1998年にアイヌの小川隆吉氏らと連名で「アイヌ語地名の尊重とその平等な併記を求める要望書」を出すなどの活動を続けているが、なかなか受け入れられてきていない。本号には、国土地理院の地形図で、断崖のある川という意味の、ニシュオマナイ川が、何の意味もなさないシュオマナイ川に、砂浜のある川の意味のオタウンナイ川が、同じウグイ川に変更されたことを伝える北海道新聞の記事が紹介されている。後者は雌阿寒岳の噴火に備えた住民の話し合いで発覚したとのことで、地名の持つ意味が正しく理解されないことが、別な混乱を招きかねない事態も発生させている。アイヌ語地名は、北海道のみならず、広く東日本一帯に及んでお

り、そのことによって文化や産業、生活レベルでの交流の様子が分かる。さらなる研究と議論の広がりに期待したい。

◆文化情報 北海道文化財保護協会

〒060-0002札幌市中央区北二条西7丁目
かでの2・7ビル9階 TEL011-231-4111

www.i0.ocn.ne.jp/~bunkazai/

◇309 2008.9 B4 4p

見て、触れて、親しむを主眼に

道教委で「文化財保護強調月間」

を設定 長谷川雅志

「先住民族の権利に関する国際連

合宣言」採択の意味と課題 佐藤 幸雄

上之国勝山館跡の出土品 国の重

要文化財に指定

榎本武揚のハバロフスクの一日 舟山 廣治

蝦夷錦の年代測定と今後の展望 中村 和之

炭鉱よもやま話(63) 炭鉱戯画 青木 隆夫

カネト合唱劇旭川講演 出演者

「感動、感激」観客超満員、立

ち見も

文化の新しい風 北海道遺産(22)

「ほっかいどうムラの宝物さが

しプロジェクト」の第一次登録

が終了 北海道遺産構想推進協議会

アジア初の大発見 滝川産カメ化

石/9月26日に文化財講演会/

文化財保護に関する情報

◆北海道れきけん 北海道歴史研究会

〒063-0037札幌市西区西野七条9-2-12
田中貢方 TEL011-667-2137

◇68 2008.10 B5 12p

わが国の教育制度—雑感(3) 久々湊昭三

日帰り探訪は「温泉とサッポロピ

リカコタン」へ 田中 貢

「本会及び本会行事等に関するア

ンケート」結果報告

内も外も大変身 当麻鍾乳洞

◇69 2009.1 B5 8p

新年のごあいさつ

尾張村と八雲村

秋の日帰り探訪は北村温泉へ

歴研事務局

地蔵 慶護

田中 貢

地蔵 慶護

◆北方民族博物館だより

〒093-0042北海道網走市潮見309-1
TEL0152-45-3888

◇70 2008.9 A4 6p

ロビー展「大昔の大きな動物 サ

ハのマンモスを知ろう」 角 達之助

講座「地球温暖化とマンモス絶滅」

講師・福田正己氏 角 達之助

環北太平洋の文化Ⅲ第23回特別展

「トーマスの物語—北西海岸の

インディアンのくらしと美」 斎藤 玲子

◆いわて文化財 岩手県文化財愛護協会

〒020-0102岩手県盛岡市上田字松屋敷34
岩手県立博物館内 TEL019-661-9688

◇225 2008.5 B5 8p

伝統文化の発展を目指して 佐藤 宏

平泉世界遺産登録に向けた岩手県

の取り組みと方針 南 敏幸

毛越寺の文化財をどう守り伝える

か 南洞 頼賢

平泉世界遺産に向けた課題

景観をどうするのか

達谷窟敬和

岡倉天心の「平泉」

熊谷 常正

アナログからデジタルへ

伊藤 博幸

魅力あふれる寂聴さん

佐々木勝宏

◇226 2008.7 B5 12p

《平泉特集》

遺跡は歴史と文化の遺産

佐藤 宏

平泉文化の史的意義

金野 静一

提言

文化遺産の中の地域社会 加藤 章
 今後、充実すべき面 安藤 厚
 世界の「世界遺産」と平泉 合田 武
 史跡の整備と活用再考 相原 康二
 イコモスからの指摘 千坂 峻峰
 古都再現の夢 勝部 民男
 「平泉と漆」を知りたい 工藤 紘一
 月見坂の向こう側 鎌田 勉
 地上の「浄土」を体感
 郷土史学習会、平泉で現地研修
 ◇227 2008.9 B5 8p
 平泉世界遺産に思う 瀬川 司男
 本物を本物で 船越 昭治
 浄土と楽園 大矢 邦宣
 老舗「仙臺屋」と市街地 佐藤 浩彦
 伝承地の「遺跡化」を 相原 康二
 無量光院復元プロジェクト 熊谷 常正
 衣川の歴史を講談で語ろう 伊藤 敏男

◆ホツマ ホツマ研究会
 〒020-0026岩手県盛岡市開運橋通3-35-201
 TEL019-653-5554 年2000円
 ◇60 2008.10 A5 8p
 「冥界の鎬先生様」 清藤 直樹
 鎬邦男先生追悼の旅
 「石巻ホツマ探訪ツアー」報告 熊谷 達央
 古事記の大嘘(3) 小川蒼秀／鎬邦男

◆市史せんだい 仙台市博物館
 〒980-0862仙台市青葉区川内26
 TEL022-225-0814
 www.city.sendai.jp/Section/Kyouiku/Museum/
 ◇18 2008.9 A5 128p 700円
 座談会 戦中戦後の川内付近
 相原陽三／高橋五郎／千葉久
 太郎／広瀬喜美子／濱田直嗣
 七種連歌会の運営 綿抜 豊昭
 仙台付木 加藤 宏

「仙台藩演能記録」から 菅原 友子
 史料紹介
 伊達政宗文書・補遺(2)
 元禄期『仙台領国絵図』関係資
 料—『陸奥国仙台領変地其外
 相改之候目録』仙台市域関係
 分抜粹 倉橋 真紀
 入生田康欣慶応二年日記抄(2) 相原 陽三
 資料紹介
 仙台市区及び区長制関係資料 斎藤 誠
 市史編さん室日誌抄／普及活動報
 告／部会活動報告・編さん室か
 らのお知らせ／市史編さん年次
 計画

◆仙臺文化往来『仙臺文化』編集室
 〒982-0021仙台市太白区緑ヶ丘1-19-6
 渡邊慎也方 TEL022-249-6530

◇7 2008.8 A4 8p
 70年前の自然観察記—賢測でカワ
 ガラスの繁殖確認
 その後の地下水流
 いま仙台でなにか……(5)
 読書の声 昔の映画などの思い出 保原 啓吾
 宮城県の外務業務“氏家メモ”で
 見る激動の三年間 氏家一郎遺
 稿集(4)

◆道鏡を守る会 道鏡を守る会
 〒989-6156宮城県大崎市古川西館3-4-35
 本田義幾方 TEL0229-22-7364 年3000円

◇30 2008.8 B5 75p 1000円
 おたより
 08供養祭
 顕正碑設置
 下野薬師寺別当になる—小説「北
 辰の使者」より 渡邊久志郎

2008年 茂木・御前山探訪 田中 美好
 講演会と研修旅行に参加して 片岡 秀雄
 拝啓 道鏡太政大臣禅師様 久佐野 昭
 道鏡さんは自然を守った 澤村 康男
 道鏡墓について 川島 恂二
 その場に立つ大事さ 田井友季子
 わかりの地史跡めぐり 内山 正之
 小田原の勝福寺を訪ねて 森本 裕之
 春日山原生林内遊歩道を歩きなが
 ら 本田 義幾
 逆さ井戸について
 道鏡悪人説が関東、東北に多い訳

城戸 正和
 下野薬師寺二月堂についての一考 近藤 純雄
 道鏡を見直す新たな視点(問はず
 語り) 本田 義幾
 資料
 『霊場伝説物語』より岡寺の道鏡
 小冊子「弓削の旅」より 本田 義幾

◆ナジェージダ(希望)
 石巻若宮丸漂流民の会
 〒236-0052横浜市金沢区富岡西2-21-23
 大島幹雄方 TEL045-773-3919
 homepage2.nifty.com/deracine/

◇20 2008.9 A4 32p
 《特集 ブラジルと若宮丸漂流民》
 はじめに 大島 幹雄
 フロリアノポリスの若宮丸漂流民
 記念碑 大島 幹雄
 サンタ・カタリーナ島ってどんな
 ところ? 今村 享嗣
 ブラジルからのメッセージ
 新里エリシオ・善和／金親寿恵
 パウロ・パウタザー・ローザ
 漂流民の会からのメッセージ
 遙かフロリアノポリスに想いを

馳せて 木村 成忠
 日本から一番遠い国、ぐんぐん
 近くなる“ブラジル” 加藤 豊子
 現在のサンタ・カタリーナ写真集
 大原ジニス葉子
 ナジェージダ号乗組員が見たブラ
 ジル 大島 幹雄
 津太夫よ、君はブラジルに上陸し
 たか? 佐藤三寿夫
 「文化魯寇」と仙台に残る三つの史
 跡 高橋 寿之
 善六直筆の日本語を求めて 大島 幹雄

◆歴史 東北史学会
 〒980-0862仙台市青葉区川内 東北大学文
 学部日本史研究室 TEL022-217-6064

年4000円
 www.sal.tohoku.ac.jp/nihonshi/t-shigakukai/
 ◇111 2008.9 A5 95+55p 2100円(抄)
 近世後期宿場社会の犯罪と内済
 —奥州郡山宿を事例に 坂田 美咲
 近世・近代移行期における伝染病
 対策 竹原 万雄
 明治初期における地域有力者の政
 治的活動—福島県安積郡郡山宿
 の官民関係を手がかりに 徳竹 剛
 書評 永井隆之著『戦国時代の百
 姓思想』 菌部 寿樹

◆季刊東北学
 東北芸術工科大学東北文化研究センター
 〒990-9530山形市上桜田3-4-5
 TEL023-627-2168 年10000円
 www.tuad.ac.jp/tobunken/ (発売:柏書房)

◇16 2008.8 A5 225p 2000円
 《特集 平泉、一万年の系譜のもとに》
 座談会 国際交易都市・平泉の歴
 史と文化—世界遺産記載延期の

勧告をめぐり 入間田宣夫／熊谷公男
 八重樫忠郎／赤坂憲雄
 蝦夷の系譜 工藤 雅樹
 奥羽古代・中世交易史
 —西と南を視野に入れて 柳原 敏昭
 平泉・宗教の系譜—仏教都市建設
 の底にあるもの 菅田 慶信
 救済と表象—「中尊寺供養願文」
 寺院に投影された意味について
 長岡 龍作
 奥六郡から奥羽両国へ—平泉の政
 権の成り立ちをふりかえて 入間田宣夫
 堀のある風景—柳の御所に至るま
 での弥生時代からの系譜 大平 聡
 土器の系譜—中世の土器様式を準
 備したもの 飯村 均
 柳の御所遺跡の建築 宮本長二郎
 平泉藤原氏と中世武家政権論 七海 雅人
 野口英世と会津武士道 星 亮一
 絵はがきに見る東北日本・アジア
 (1) 戦前の平泉風景 東北文化センター
 日本民間信仰史研究序説(13) 白
 比丘尼・大白神・白大夫—白の
 漂泊者 谷川 健一
 人間学としての考古学(3)
 景観の考古学 安斎 正人
 濟州島の民俗(16) ノロ獵につい
 て—生業民俗論(9) 高 光敏
 モノからみる韓国(4) ゴムシン
 李 恵燕
 ラオス 山からの伝言(15)
 キアトンとションザウ 安井 清子
 現代社会とフィールド志向(時評)
 田口 洋美
 分野を超えた協業の成果(書評) 岸本 誠司
 支配からみる村社会(書評) 竹原 万雄

◆まんだら 東北文化友の会会報

東北芸術工科大学東北文化研究センター
 〒990-9530山形市上桜田3-4-5
 TEL023-627-2168 年10000円
 www.tuad.ac.jp/tobunken/
 ◇36 2008.8 B5 64p
 《特集 東北の深層へ》
 巻頭鼎談 縄文文化の拠点づくり
 安斎正人／北野博司／福田正宏
 東北研究の現在「東北1万年のフ
 ィールドワーク」公開講座
 縄文社会を考える
 佐々木藤雄／小林圭一／安斎正人
 「高校生のための地域学ゼミナ
 ル」火の民俗と文化
 出羽三山・火にまつわる儀礼を読
 み解く 内藤 正敏
 火の向こうに人々は何を感じてき
 たのか 六車 由実
 焼畑と野焼き 岸本 誠司
 書誌紹介 菊地和博著『手漉き和
 紙の里やまがた』を読む 伝統
 と現代に生きるなりわい 張 大石
 第19回ブナ林と狩人の会「マタギ
 サミット in 柴村」に参加して
 大石 絃子
 東北ルネサンス・プロジェクト
 in 仙台報告 赤坂憲雄対論「東
 北・知の系譜」／小説家・ライ
 ター講座／編集者講座
 座談会 横山英子かゆく！(6)
 新城猪之吉／弓田修司／横山英子
 文学者たちの山形(16)
 宮終二の終わりなき戦争 池上 冬樹
 聞き書き・知られざる東北の技
 (16) 樹木匠の黒坂登さん 野添 憲治
 母の聞き書き(2) 山ふところに
 生きて—五十嵐文子さんに聞く
 守岡 映

地域づくりの現場を訪ねて(26)
 小さきところの思想 森 繁哉
 東文研アーカイブス通信(5)
 植民地時代のソウルの建物 李 恵燕
 地域誌だより(9)
 『津軽学』4号予定よりちょっと
 遅れ 杉山 陸子
 生きるとは何か 滝沢真喜子
 『仙台学』6号は「駅前物語」 千葉 由香
 ヒロロと彼岸 菅家 博昭
 まんだら
 表紙を飾るアーティストたち 佐藤 優

◆福島県史料情報 (財)福島県文化振興事業団
 〒960-8116福島市春日町5-54 TEL024-534-
 9193 www.history-archives.fks.ed.jp
 ◇22 2008.10 A4 4p
 「福島県地誌略 上」(庄司家寄託
 文書鑑3327) 山田 英明
 地籍図に見る神指城(2) 本間 宏
 古文書に記された古墳(2) 小暮 伸之
 松平容保の義捐金 渡辺 智裕
 野出蕉雨と『日誌』 渡辺 智裕
 葛尾村再発見プロジェクト歴史講
 座「郷土史料からの葛尾の歴史
 を探る」 山内 幹夫

関 東

◆近代史料研究 日本近代史研究会
 〒305-8571茨城県つくば市天王台1-1-1
 筑波大学歴史人類学系 中野目研究室内
 TEL029-853-4066
 ◇8 2008.8 A5 76p
 廃棄・収集された行政文書の史料
 学的特質—福島県庁文書を事例
 として 山田 英明
 大正期における「組織外交」の展
 開と「外務省記録」—「亜細亜曲

保管文書」の形成と構造分析を
 中心として 熊本 史雄
 戦後教育改革期における教員再教
 育の実態—福島県立安積高等学
 校を事例として 小田 賢二
 最上家所蔵「陸羯南関係史料」の
 概要 中野目 徹

◆史 境 歴史人類学会
 〒305-8571茨城県つくば市天王台1-1-1
 筑波大学大学院人文社会科学研究所内
 TEL029-853-4403
 ◇57 2008.9 A5 127p 2000円(抄)
 菘藩における朝鮮語通詞と朝鮮情
 報 木部 和昭
 町内と祭礼—茨城県土浦市街地八
 坂祇園祭を中心に 前川 智子
 漁をしない漁民集団—「伝承主体」
 としての漁協とクミアイ 林 圭史
 書評 井上智勝著『近世の神社と
 朝廷権威』 渡部 圭一

◆ぐんま地域文化 (財)群馬地域文化振興会
 〒371-0801群馬県前橋市文京町3-27-26
 群馬県立文書館内 TEL027-221-2346
 ◇31 2008.10 B5 40p
 《大泉町地域特集》
 歴史を掘る 鈴鏡をつけ椅子にす
 わる女子埴輪 右島 和夫
 エネルギーと地球環境 宝田 恭之
 東毛地域の発掘情報 古海松塚11
 号古墳と出土遺物について 関本 寿雄
 図録 ぐんまの文化財
 大泉の文化財 石関 伸一
 ぐんまの歴史入門講座
 第95講 古代の交流を考える—
 大泉町から出土した文字資
 料より 小池 浩平

第96講 境目の領主—小泉城主
富岡氏 青木 裕美

第97講 利根川の古海岸岸 瀧沢 典枝

第98講 大泉町の外国人との
共生について 青木 政夫

第99講 大泉町の石造文化財
石造文化財の見方(20) 秋池 武

古文書解説入門講座(18)—古文書
から歴史を読む 利根川対岸
村々の争い 小川八千代

座談会 ぐんまの戦後史を語る
群馬県の開拓・開墾事業(2)
木暮喜義／落合勇次／戸神重美
／小野勝康／本多今朝次郎／大
関恭一／中澤哲夫／山本世紀

地域づくりと文化遺産 遺跡の保
存と活用 町民の活用を目指し
た史跡公園化 石関 伸一

ぐんまのくらしと民俗
社日と探湯神事 川島 健二

ぐんまの川と生活 大泉と利根川
澤口 宏

ぐんまの人物誌 中平四郎 佐藤 泰子

ぐんまの郷土芸能
仙石ささらと吉田西里神楽 川島 健二

ぐんまの地名
イズミとナガラの地名考 澤口 宏

研究・学習サークル活動紹介
大泉歴史同好会 富山 敏

出版情報『館林市史』資料編・
特別編の刊行 岡屋 紀子

ぐんまの自然と風土
利根川の雑魚は今 関根 和伯

◆群馬歴史散歩 群馬歴史散歩の会
〒379-2154群馬県前橋市天川大島町317-1
TEL027-223-2785 年4500円

◇206 2008.10 A5 64p

《特集 桐生市(旧桐生市・勢多郡新里村・
黒保根村)》

桐生まちなか地図／桐生の近代化
遺産 明治から昭和と出える
まち／桐生に生きた人物／桐生
新町の「まちの成り立ち」と
「まちづくり」 桐生市観光交流課

八甲田山雪中行軍の指揮官 福島
泰蔵大尉の碑を読む 斎藤 進一

高山彦九郎日記による歴史散歩
(14) 『乙未の春旅』(3) 正田 喜久
吾妻鏡と新田義重 細谷 清吉

日帰り温泉ぶらり旅(7)
「天神の湯」の巻 田口 正美

絵手紙で歩く 上毛かるた(29) 小林 生子

かなな名所めぐり／ガイドブック
に載ってない臨江閣 井野 修二

◆武尊通信 群馬歴史民俗研究会
〒372-0031群馬県伊勢崎市今泉町1-1064-4

◇115 2008.9 B5 4p
篠塚藩から上里見藩への異動—松
平忠恒の陣屋移転について 藤井 茂樹

江戸後期の上野国本山派修験 久保 康顕

講演会・総会報告

◇116 2008.12 B5 4p
縁起をかつぐ手術日と退院日 板橋 春夫

新潟県の養蚕と地域間交流 飯島 康夫

第83回例会記事

◆埼玉史談 埼玉県郷土文化会
〒350-0231坂戸市泉町12-5 大圖口承方
TEL049-281-4983 年4000円

◇295 (55-3) 2008.10 A5 62p
天正18年前後の武蔵出身武士達の
去就 大圖 口承

寺門静軒覚書(2) 佐藤 繁

武州秩父雑話(3)—藤田家五代(1)

大墅 鴻風

大島有隣と小谷三志の相関(5)—
『心学問答』十二冊迄写了中間
報告 岡田 博

明治天皇幸手行在所と埼玉県への
地方巡幸今昔 大熊 晋一

資料紹介
新河岸川舟運早舟の引き札 内野 勝裕

大宮住吉神社御神楽に関する記録
(上) 編集部

◆日本の石仏
日本石仏協会(発売:青娥書房)
〒357-0067埼玉県飯能市小瀬戸29
TEL042-971-6512 年8000円
www.l.pbc.ne.jp/users/sekibutu/

◇127 2008.9 A5 80 2100円
巻頭随想「公開講座30回記念」を
終えた夏 坂口 和子

《特集 念仏供養塔》

佐久の踊り念仏塔再考 岡村 知彦

念仏塔と『念仏集(塔)』 犬飼 康祐

真盛上人と念仏供養 殿南 直也

岐阜県内の徳本供養塔を訪ねて 早川 孝正

剣術指南南久保太右衛門について
村上 昭彦

童女のほほえみ三十三観音 筒井 隆義

カトマズ市民の寺・サンクター
の調査 内山 孝男

石塔の基礎知識(17) 岡村 庄造

「石」を知る(17) 小松 光衛

石燈籠入門(37) 嘉津山 清

石仏写真と私(17) 杉本 康希

あ・ら・か・る・と—私の石仏案内
遠藤康子／平井一雄

◆富士山遺文拾遺 まるはとだより発行所
〒334-0013埼玉県鳩ヶ谷市南1-5-5

岡田博方 TEL048-281-4118

◇29 2008.8 B5 8p
古今東西宝語(29)
報徳思想と調和社会
大島有隣先生御説経開扉(26)
『道話資料』天保五年正月(1) 岡田 博

有縁機縁録 川口鋳物師 鈴木文
吾さん死去／新刊紹介『川口史
林』第73号、『デーリリータウ
ンページ川口・戸田版]

◇30 2008.9 B5 8p
古今東西宝語(30)
戦争の教訓風化させぬ
大島有隣先生御説経開扉(27)
『道話資料』天保五年正月(2) 岡田 博

有縁機縁録 半年間に着いた本と
論考34冊感謝—誌上紹介の遅れ
と疎略のお詫びに

◇31 2008.10 B5 8p
古今東西宝語(31) 元来地獄無し
大島有隣先生御説経開扉(28)
『道話資料』天保五年正月(3) 岡田 博

有縁機縁録 新刊紹介 日本友和
会80周年・国際シンポジウム記
録『九条の風になろう』、沖田
国賠訴訟に勝利し警察・検察を
ただす会編集・発行『STOP
チカン・エンザイ』

◆郷土史研通信 八千代市郷土歴史研究会
〒276-0023千葉県八千代市勝田台3-24-10
牧野方 TEL047-484-9728 年3000円

◇63 2008.8 A4 8p
報告
5月例会報告 平戸地区フィー
ルドワーク 小菅 俊雄

研修旅行
会津地方歴史探訪の報告 酒井 正男

7月例会報告
速報レポート 島田台の題目塔道
標が仮移転&新たに地中から新
道標を発掘 佐久間弘文
続いて 台座新発見の報告 村田 一男
平戸・植草家への訪問の報告
速報レポート
姿をあらわした平戸台8号墳 巖 由美
遺稿 老いを生きて 吉橋 清

◆たかっぱ通信

千葉県立中央博物館大利根分館 川のフ
ールドミュージアム 〒287-0816千葉県香
取市佐原ハ4500 TEL0478-56-0101
www.chiba-muse.or.jp/OTONE/
◇準備号 2008.10 A4 4p
川のフィールド・ミュージアムつ
てなあと
「水塚」つなあと「水塚」は貴重
な文化遺産／水神社／十六島地
区「水塚調査隊」に参加しよう

◆利根川文化研究 利根川文化研究会

〒263-0021千葉県市稲毛区轟町4-3-30 千葉
経済大学 菅根研究室気付 TEL043-253-
9111 www.7a.biglobe.ne.jp/~tonebun/
◇31 2008.9 B5 88p

《埼玉県特集》

明治後期における河岸問屋定雇船
による肥料仕入輸送—埼玉県新
河岸川筋下新河岸伊勢安の定雇
船を中心として 酒井 智晴
嘉永・安政期における新河岸川舟
運の動向—船持船頭の動向を中
心として 阿部 裕樹
蒸気船通運丸・永島丸の利根川筋
赤岩(北河原)航路の変遷につい
て 清水 正彦

入間川の筏流し 柳戸 信吾
戦国期の利根川水運と城郭—江戸
川開削以前の中世利根川再考 新井 浩文
絵馬に描かれた河川改修 大久根 茂
笠原沼の造成及び新田開発と用患
水 河井 伸一
北川辺町飯積遺跡発掘調査 鈴木 孝之
上利根川の引船人足をめぐる争論
史料(上)—「引船一件願書并済
口書附写」の紹介 佐藤 孝之
天保期における見沼代用水分水の
事例について 田村 敬
施設紹介 ふじみ野市の舟運展示
施設—上福岡歴史民俗資料館と
福岡河岸記念館 橋本祐可子
新刊紹介
埼玉県立文書館収蔵文書目録第
46集『湯本家文書目録』 山崎 聡
『埼玉県内に残る旧堤の調査研
究報告書』について 小林 寿朗



*埼玉県に関わる水運を中心とした特集である。酒井智晴氏は、河川舟運から鉄道運送への移行を明らかにするに当たっては、まずは、河岸問屋の肥料仕入輸送の特質を一艘レベルの実態まで掘り下げて買入状況を検証する必要があるとの問題意識から、定雇船の輸送や収支状況などを精細に分析する。阿部裕

樹氏は、嘉永・安政期の新河岸川舟運の特質を、新興勢力である早船の船持船頭栄次郎・吉五郎親子の活動を中心に解析し、19世紀初期の江戸近郊農村の経済成長を背景とする新興勢力の台頭が、従来の船問屋を頂点とする秩序を動揺させ、経済活動を活発化させていく要因になったことを示唆する。大久根茂氏は、荒川水系の河川改修工事の様子を描く、寛保3年から明治32年に至る絵馬、全11点を紹介する。その内の10点が明治時代に奉納されたものであることに、驚かされる。清水正彦氏は、東京から利根川上流方面の本川および渡良瀬川水系に向かう一航路である利根川筋赤岩航路の変遷について、広範な関係資料に基づいて明らかにする。今後の川蒸気船交通史研究にとって基礎文献になるだろう。その他の論考も含め、いずれも若手研究者のものかと思われるが、意欲に満ちた特集である。

◆房 総 川城文庫・藩政史研究会

〒299-4311千葉県長生郡一宮町白山8-7
TEL0475-42-3034
◇122 2008.9 B5 8p
長生村「虫供養の碑」を尋ねて 川城 昭一
風俗文選の芭蕉忌 川城 昭一

◆あしな 山村民俗の会

〒132-0031東京都江戸川区松島1-19-17
サトービル TEL03-5663-6748 年5000円
www.8ocn.ne.jp/~sanmin/
◇283 2008.9 B5 22p
写真図譜 日本の巨樹—幹周り巨
樹百選リストより 井上 明生
都内最大富士塚登頂記—東京新宿
・成子天神の富士塚 酒井 幸光
九月九日考
—「重陽」の由来と民俗 倉田 正邦

山里だより(12) まむしアレコレ
話—丹波美山町 西浦 左門
旅の草ぐさ(7) 鎌と刀を刻む道
しるべ—岩手県岩泉町 杉崎満寿雄
『東西遊記』と南部盲暦 宮崎 茂夫
津波が目の前に！
—伊豆東海岸・北川 邑科 久乃

◆足立史談

足立区教育委員会足立史談編集局
〒120-0001東京都足立区大谷田5-20-1
足立区郷土博物館内 TEL03-3620-9393
◇486 2008.8 A4 4p
五兵衛新田との交渉役
—安富才輔について あさくらゆう
常設展示リニューアル報告(1)
市場建物と村の景観の調査
都市近郊の農産物を追う(13)
金町小かぶ(3) 荻原ちとせ
お知らせコーナー
◇487 2008.9 A4 4p
お化け煙突・千住火力発電所(1)
—点検・小修理は直営で 姫野 和映
常設展示リニューアル報告(3)
千住市場の間屋と建物(1)
—出桁造り 内山 大介
都市近郊の農産物を追う(14)
ツマモノ(1) 荻原ちとせ
お知らせコーナー
◇488 2008.10 A4 4p
対談 近藤勇の写真について(1)
綾瀬・金子塚に残された写真の
謎 増田光明/森重和雄
お化け煙突・千住火力発電所(2)
—点検・小修理は直営で 姫野 和映
『梅田の今昔』こぼれ話、見たり
聞いたり 年中行事のいろいろ
(11月～12月) 瀬田 良雄

都市近郊の農産物を追う(15)
ツマモノ(2) 荻原ちとせ
お知らせコーナー

◆足立史談会だより

〒120-0001東京都足立区大谷田5-20-1
足立区郷土博物館内 TEL03-3620-9393
◇245 2008.8 A4 4p
コラム教育史料 終戦直後の日本の教育(82) 新教育指針 第三章人間性・人格・個性の尊重 堀川 和夫
文化財の保存と保護(11) 消えた「熊本橋(くまのきばし)」/元宿 玖塚跡のレンガ組遺構 矢沢幸一朗
区民教養講座報告/鷗外忌 墓前祭/千住の鷗外碑への訪問者
◇246 2008.9 A4 4p
平成20年度区民研究発表会盛會裡に終了「ふるさと足立」を熱気をもって語る発表/バス探訪参加の報告
コラム教育史料 終戦直後の日本の教育(83) 新教育指針 第三章人間性・人格・個性の尊重 堀川 和夫
小泉健男氏遺稿集 川施餓鬼
研究発表会事務局資料から 荒川堤は千住まで続いていた 矢沢幸一朗
◇247 2008.10 A4 4p
コラム教育史料 終戦直後の日本の教育(84) 新教育指針 第四章科学的水準及び哲学的・宗教的・教養の向上 堀川 和夫
学童疎開の資料が博物館に 堀川 和夫
鷗外スポット 仲間入り
清澄庭園・芭蕉記念館探訪報告

◆あるむせお

府中市文化振興財団府中市郷土の森博物館

〒183-0026東京都府中市南町6-32 TEL042-368-7921 www.fuchu-cpf.or.jp/museum/
◇85 2008.9 A4 8p
川崎平右衛門の墓めぐり(2)
岐阜県瑞穂市十九条 興禅寺 馬場 治子
展示会案内
テーマ展48 都市と野鳥 中村 武史
NOTE 川崎平右衛門はいつ「代官」になったのか 馬場 治子
from Tom to Hana 新米学芸員の交換日記(2) お答えします。
八幡町今昔 Hana
最近の発掘調査
旧石器時代の焼け石調理跡 中山 真治
リニューアールトピックス—展示室再生(10)「こども歴史街道」は、こどもに歴史をどう伝えるか

◆板橋史談 板橋史談会

〒174-0076東京都板橋区上板橋2-30-7-104
TEL03-5398-2682
◇247 2008.8 A5 49p
<特集 太平洋戦争と私>
新米看護婦のびっくり体験 泉 貞代
赤い水 和田 潔子
外地で迎えた終戦 坂田 宏一
敗戦前後 若林 千春
太平洋戦争と私 若林 清
寄稿 成増陸軍飛行場記(7) 山下 徹
史蹟を訪ねて(6) 掃苔に行く 猪瀬 尚志
写真ニュース(7)「形あるもの、いつかは…しかし…」—ある石造物の現状から 井上 富夫
写真探訪 板橋の地名(7)「小豆沢」(4) びく塚・首塚 大澤 鷹邇
◇248 2008.9 A5 47p
寄稿 成増陸軍飛行場記(8) 山下 徹
横浜開港遺聞

—板橋に製糸場があった 成澤 誠司
写真ニュース(8)
「公園内の庚申塔」 井上 富夫
史蹟を訪ねて(7) 長谷川利行 猪瀬 尚志
ひろば
櫻井徳太郎展—板橋を愛した民俗学者— 見学記 泉 貞代
會澤秀次さんの思い出 泉 貞代
例会資料 護国寺から雑司が谷の史蹟を訪ねて 櫻澤 俊彦

◆奥武蔵 奥武蔵研究会

〒188-0011東京都西東京市田無町7-12-21-302 浦野要方
◇363 2008.9 B5 22p
奥武蔵の季節 浦野 要
武蔵河越の歴史浪漫 市川 光夫
奥武蔵、秩父の獅子舞(25)
—吉田阿熊白岩の舞 関口 洋介
秩父地方の雨乞い習俗(1) 宮下 玲子
奥武蔵情報拡大版 天覚山北東尾根コースの近況 町田 尚夫
秩父安全登山検定体験記 成川 茂雄
桧洞丸 染谷 鷹治
奥武蔵夏山日誌より 木本 和男
山行報告

◆季刊 Collegio 之潮

〒185-0021東京都国分寺市南町2-18-3-505
TEL042-328-1503 www.collegio.jp
◇33 2008.8 B6 36p
「寛永江戸全図」の風景
—之潮版江戸図について(2) 鈴木 理生
東京電車線路物語(12) JRでは昔の地名が生きています 井口 悦男
東京文学地図帖 戦後編(16)
三多摩 植田 満文
江戸東京消失地名録 地形地名編

品川区(2) 坂本 道夫
地図の中の記憶(18)
甘珠爾廟(1) 大堀 利和
17世紀ロシアの「探検」と「発見」(6) 佐々木路子
コラム地図のなかの水辺(19) 上原/(20) 浮間
◇34 2008.9 B6 36p
150年前の江戸を実測復元する(3)「見えないもの」を描いた江戸の絵師 中川 恵司
東京電車線路物語(13)
品川ハッ山路橋 井口 悦男
東京文学地図帖 戦後編(17)
木場・洲崎 植田 満文
町田村の香雪園
地形は呼んでいる 田中 正大
地図の中の記憶(19)
甘珠爾廟(2) 大堀 利和
江戸図について 切絵図と武鑑 芳賀 啓
17世紀シベリアの地図化過程(1) 佐々木路子
コラム地図のなかの水辺(21) 弦巻川

◆北区史を考える会会報

〒115-0052東京都北区赤羽北1-3-10
大澤栄美方 TEL03-3907-0040
◇89 2008.8 B5 8p
第307回月例研究会
銀行から見る王子の変遷 有馬 純雄
第131回月例研究会
王子岸町の今昔 石鍋 秀子
第308回月例研究会
東京第一陸軍造兵廠の軌跡 高木 文夫

◆交通史研究 交通史研究会

〒194-0292東京都町田市相原町2600

東京家政学院大学人文学部 熊井保気付
Tel042-782-4977 www.soc.nii.ac.jp/jstc/
◇66 2008.8 A5 76p
《兄玉幸多先生追悼号》
兄玉幸多先生への感謝と思ひ出 青木 栄一
追悼兄玉幸多先生 宇佐美ミサ子
兄玉先生の学恩に謝して 川名 登
兄玉先生の思ひ出 熊井 保
信州人兄玉先生 胡桃沢勘司
兄玉幸多先生の思ひ出 武知 京三
兄玉幸多先生のおもいで 丹治 健蔵
兄玉会長と交通史研究会の設立 波田野富信
兄玉先生を偲んで 平川 新
兄玉先生を偲んで 深井 甚三
兄玉幸多先生の想ひ出 藤村潤一郎
特別基金のこと 増田 廣實
兄玉幸多先生の思ひ出 丸山 雍成
兄玉幸多先生の思ひ出 村上 直
兄玉幸多先生と私 村瀬 正章
追悼 兄玉幸多先生 山本 弘文
兄玉先生の思ひ出 山本 光正
静岡県新居町での合宿調査のこと
など 渡辺 和敏
研究ノート 中山道関ヶ原宿にお
ける宿・助郷誓詞 橘 敏夫
書評 丹治健蔵著『関東水陸交通
史の研究』 増田 廣實
例会報告要旨／第34回大会・2008
年度総会報告／新刊紹介
◆寺院史研究 寺院史研究会
〒133-0056東京都江戸川区南小岩7-19-9
豊荘102 岡野浩二方
◇12 2008.8 B5 152p
中世寺院における堂衆の活動と経
済基盤—東大寺堂衆を中心に 菊地 大樹
鎌倉幕府支配層の経済力
—冥道供の勤修を題材として 前田 治幸

聖教をめぐる伝説—武蔵国秩父郡
般若村と大般若経 加増 啓二
池上本門寺東谷の坊と池上本院 安藤 昌就
転害会関連史料紹介(2) 畠山 聡
◆下町文化
江東区教育委員会生涯学習部生涯学習課
〒135-8383 東京都江東区東陽4-11-28
Tel03-3647-9111 www.city.koto.eg.jp
◇243 2008.9 A4 8p
歴史と文化を考えよう '08江東
区文化財保護強調月間 江東区
民まつり民俗芸能大会／旧大石
家特別公開／文化財講演会 文
書が語る江東区の近代／江東も
のづくりフェア
08文化財関連イベントマップ
江東歴史紀行
土の中に眠る江東区の歴史
ココにも歴史があった 松村 浩士
自主グループ繁盛記 江東区の歴
史と文化を継承する会 赤澤 春彦
◆城郭だより 日本城郭史学会会報
〒174-0056東京都板橋区志村1-35-2-202
Tel03-3967-1948
◇62 2008.7 A4 6p
宮津城残存石垣を撤去—僅かに残
る三の丸石垣だったが遺構消滅
熊本城の本丸御殿 復元竣工成る
／日出城鬼門櫓が保存決定
最新の調査研究成果を綴るハンド
ブック『城郭の見方・調べ方』
最近の注目される城郭関連図書か
ら／最近の城郭研究会活動から
／平成20年度総会・大会
◇63 2008.10 A4 6p
武州瀧之城復元模型完成—後北条

氏時代の畝堀など城構を再現
韓国江華島の城塞群—高麗の王城
・邑城から近代要塞群を整備・
公開、文化財行政関係者必見の
遺構群 西ヶ谷恭弘
最近の注目される城郭関連図書か
ら／城郭ニュースから／最近の
城郭研究会活動から／7月 韓
国の城郭探訪から
◆西郊民俗 西郊民俗談話会
〒160-0016東京都新宿区信濃町17-1
大島方 年2000円
◇204 2008.9 B5 41p
走り大黒天の信仰 長沢 利明
土佐へ出稼ぎに来たテント船 坂本 正夫
佐倉市寺崎の孫嫡子 大島 建彦
虫と金属の「サナギ」の神秘(上) 北野 晃
大江貫見古寺における野兎の民俗
—ユキサラシ・ユキウメを中心
に 天野 武
岡山県の笠習俗聞き書(7)
—笠と捕魚種 湯浅 照弘
関東地方の天狗伝承(1)
—その全体像 高橋 成
◆大道芸通信 日本大道芸・大道芸の会
〒157-0061東京都世田谷区北鳥山2-3-9-101
光田憲雄 Tel03-3307-2146
www.k5.dion.ne.jp/~daidoge/
◇172 2008.8 A4 2+4p 100円
墓所の幽霊／とうきたり／和尚今
日／親孝行／掃除
戸塚の大金玉／「熊野比丘尼」か
ら「けころ」へ
◇173 2008.9 A4 2p 100円
くすだれ／南京玉すだれ 名称
変遷史

◇174 2008.10 A4 2p 100円
四時代謝／欣松門左衛門の出自
◆多摩地域史研究会会報
〒190-0011東京都立川市高松町1-16-2
文化財COM内 Tel042-521-0186
◇85 2008.8 B5 16p
第17回大会報告 多摩地域史研究
会「多摩の鉄道史」に参加して
富田 康裕
資料が語る多摩 写真：京王線
5000系の導入と聖蹟桜ヶ丘行
きボンネットバス 細井 和雄
声
立地と景観から考える多摩の中世
(前期)寺院—江戸期の地誌・絵
図と近代地形図を手がかりに
(4) 馬場 喜信
◆多摩のあゆみ たましん地域文化財団
〒186-8686 東京都国立市中1-9-52
たましん国立支店内 042-574-1360
年1200円 www.tamashin.or.jp
◇131 2008.8 A5 120p
《特集 19世紀の家族像》
家族史研究・歴史の中の「父と子」
菅野 則子
愛される子どもたち—藤蔵と勝五
郎、そして露姫 北村 澄江
奉公と婚姻—在郷商人の娘たち 畑 尚子
自由民権期の女子教育と家族—石
阪美那・横川様子・吉野りうの
場合 江刺 昭子
多摩の近世墓標—墓標からみる家
族意識の発現 服部 敬史
さし絵のなかの多摩(43) 大久野
村玉内の雨乞と獅子舞—『風俗
画報』のさし絵と『儀三郎日

記] 齋藤 慎一
 洋風建築への誘い(20) 坂本 正仁
 旧小河内小学校 伊藤 龍也
 建物随想記(15) 東京の木造校舎 木塚久仁子
 酒井 哲
 古文書は語る(23) 武州御嶽権現 除地の年貢地化と地域社会
 社の江戸出開帳—金井家文書 —常総地域を事例にして 宍戸 知
 「江戸護国寺での出開帳許可願 書」より 萩谷 良太
 馬場 憲一
 「北浦」停留所の謎を巡って 19世紀の地域史 佐々木寛司
 —その所在地と存在時期 寺本 佳照
 本の紹介 茨城県における人造肥料普及と農
 町の紹介 茨城における日本美術院五浦移転
 町田市立自由民権資料館編『武 田の意義 清水恵美子
 相自由民権史料集』 牛米 努
 清水正之著『大正・昭和初期 加波山事件をめぐる歴史認識 佐藤 明俊
 多摩を走ったバス』 鈴木 文彦
 水陸交通の結節点 高浜の近代 寺門 雄一
 第49回日本史関係卒業論文発表会
 特別講座 戦国社会の禅僧・禅 寺—駆込寺の住持が寺を出る時
 廣瀬 良弘

◆地方史研究

地方史研究協議会(発売:名著出版)
 〒112-0002東京都文京区小石川3-10-5
 名著出版内 TEL03-3816-0739 年6600円
 ◇334 (58-4) 2008.8 A5 118p 1200円
 《大会特集I
 茨城の歴史的環境と地域形成》
 第59回大会を迎えるにあたって
 常任委員会/第59回大会実行委員会
 〈問題提起〉
 古代常総型土器生産文化圏の形成
 渥美 賢吾
 常陸国の「辛未年籍」 堀部 猛
 古代東国内海世界の形成と板来 久信田喜一
 中世の常陸・下総における城館と
 拠点形成 宇留野主悦
 戦国期常陸の茶生産 長塚 孝
 中世真壁郡域研究の進展にむけて
 清水 亮
 佐竹氏の常陸統一と北関東諸氏の
 縁組 今泉 徹

天正時の絹衣相論をめぐる根来寺
 と江戸氏領真言寺院 坂本 正仁
 水運史から見た近世常陸の位置 渡辺 英夫
 「土屋蔵帳」の成立とその意義 木塚久仁子
 除地の年貢地化と地域社会
 —常総地域を事例にして 宍戸 知
 「オタチ行事」の分布にみる歴史
 的環境 萩谷 良太
 19世紀の地域史 佐々木寛司
 茨城県における人造肥料普及と農
 業の発展 市川 大祐
 茨城における日本美術院五浦移転
 の意義 清水恵美子
 加波山事件をめぐる歴史認識 佐藤 明俊
 水陸交通の結節点 高浜の近代 寺門 雄一
 第49回日本史関係卒業論文発表会
 特別講座 戦国社会の禅僧・禅 寺—駆込寺の住持が寺を出る時
 廣瀬 良弘
 第49回日本史関係卒業論文発表会
 参加記
 柿島綾子/佐藤貴浩/榎本博/山本
 俊/岡田有平/刑部芳則/石田文一
 日本アーカイブズ学会の成果と今
 後の課題—2008年度大会参加
 記 柴田 知彰
 教育史料から見た茨城県内の史料
 の保存と公開について—『公文
 拾遺』編集の経緯から 海老原恒久
 茨城県中世史研究会について 関 周一
 美術史学会東西合同シンポジウム
 「学芸員なんていない!?—学
 芸員不要論を撃つ—」参加記 鎮目 良文
 書評 地方史研究協議会編『全国
 地域博物館図録総覧』 宮本 裕次
 ◇335 (58-5) 2008.10 A5 122p 1200円
 《大会特集II
 茨城の歴史的環境と地域形成》

第59回大会を迎えるにあたって
 常任委員会/第59回大会実行委員会
 〈問題提起〉
 常陸国那賀郡衙周辺における瓦倉
 の造営—対蝦夷政策に伴う兵站
 基地の荘厳化 川口 武彦
 中世における鹿嶋明神を巡る言説
 由谷 裕哉
 小田氏の乱と宗教ネットワーク 小国 浩寿
 小野蘭山学統本草学の継承者とし
 ての水戸藩士・木内政章の事績
 平野 恵
 近世における利根川流域の女人講
 によせて 西海 賢二
 絵図を写す人々
 —正保常陸国絵図を例に 小野寺 淳
 茨城県における「南朝」顕彰 田中 淳
 利根川東遷の町での地元研究 吉田 優
 摂津氏領加賀国倉月荘における領
 有状況の錯綜と在地社会—室町
 期荘園の実態をめぐる 若林 陵一
 生類憐みの政策の本質—獣害に苦
 しんだ西上州の山村 武井 弘一
 日本歴史学協会報告 佐藤 孝之
 史料保存利用問題シンポジウム
 「公文書館法施行二十周年に考
 える」に参加して 富田 任
 近代茨城地域史研究会について 北島 隆行
 展示批評 高知県立歴史民俗資料
 館企画展『鯉—カツオと土佐人』
 林 勇作
 書評 市村高男監修・茨城県立歴
 史館編『中世東国の内海世界—
 霞ヶ浦・筑波山・利根川—』 生駒 哲郎
 研究例会報告要旨
 原淳一郎/内田九州男/永田一
 計報 磯貝正義氏の計 秋山 敬

◆伝え 日本口承文芸学会
 〒214-0014川崎市多摩区登戸3460-1-704
 小澤昔ばなし研究所気付 TEL044-931-2080
 年4000円
 ◇43 2008.9 B5 8p
 「身毒丸」と「遠野物語」 兵藤 裕己
 第55回例会「語り」と伝説—三河の
 浄瑠璃姫伝承— 菱川 晶子
 〈第32回大会〉
 研究発表 第1会場 小林 幸夫
 研究発表 第2会場 真下厚/鈴木健之
 シンポジウム「声・歌・ことばの
 力—口承文芸および学会の使命
 と今後」 長野 隆之
 ◆東京産業考古学会 東京産業考古学会
 〒173-0011東京都板橋区双葉町22-8-403
 多田統一方 FAX03-3964-8548
 ◇75 2008.9 B5 12p
 海外短信 TICCIHの2009年度国
 際会議はドイツで開催 平井 東幸
 研究所めぐり 多田 統一
 線路を遮断する踏切 世界一長い
 駅名 河合 恭平
 戦争の間、仕上工見習いで働いて
 (3)(金属労働研究 第88号よ
 り抜粋)—見習い工には厳しか
 った火造りの作業 岩渕 誠一
 書評 山本勝巳(元愛媛大学教授)
 著『漆百科』 山下 甫
 赤煉瓦探訪(22) ブリック・マイ
 スター 鬼頭日出雄(2) 八木 司郎
 ◆東京大空襲・戦災資料センターニュース
 〒136-0073東京都江東区北砂1-5-4
 (財)政治経済研究所 TEL03-5857-5631
 www.tokyo-sensai.net
 ◇13 2008.7 A4 8p

「書いてみます話もします」
—こわされた家族の記憶 早乙女勝元
語り継ぐ東京大空襲 東京大空
襲・戦災資料センター 開館6
周年のつどい
「二度とあってはならぬこと」
小山内美江子さん 高岡 岑郷
「平和のバトンを受け取りました」
訪れた小中学生や先生か
資料は語る 私を支え、励まして
くれた手紙や葉書—今、センタ
ーへ
調査・聞き取りを進めています—
東京大空襲時の救護の記憶／戦
争災害研究室からの報告／国際
交流 世界に広がる東京大空襲

◆日本民俗音楽学会会報

〒184-8501東京都小金井市貫井北町4-1-1
東京学芸大学音楽・演劇講座 加藤富美子
研究室気付
◇29 2008.7 B5 24p
巻頭言 民謡の現状と民謡研究の
課題—今年度の大会に向けて 小島 美子
日本民俗音楽学会第22回東京大会
のご案内
入会のご挨拶と大学の教育現場の
報告 薦田 治子
音楽とリズムと踊りは、切っても
切り離せない人類の文化 村田 達美
牛追い歌のまちに住んで 八重樫春子
鉄製銅拍子と真鍮製銅拍子のこと
松永 建
秋田県の学校教育における「郷土
の音楽」の取扱いについて 佐川 馨
山間地集落の行く末と民俗技術 阿部 武司
宮流神楽について 新見 優
八百津だんじり祭り 国枝 直子

岸和田だんじり祭
—祭囃子はりはびり中 森田 玲
イベント情報

◆練馬郷土史研究会会報

〒177-0041東京都練馬区石神井町2-28-31
吉越正博方 TEL03-3996-4454
◇317 2008.9 B5 4p
昭和史雑感 昭和天皇と将軍達 鎌田 茂男
彰義隊士 大岩衆生の系譜考(4)
—墓碑を手掛かりとしての 日向康三郎
19・1月例会講演 橋戸・備中庄
(庄)氏の足跡を訪ねて(9) 荘 正

◆東日本部落解放研究所ニュース

〒111-0024東京都台東区今戸2-8-5
TEL03-5603-1863
◇73 2008.8 B5 4p
第22回研究者集会・開催要綱
「歴史」分科会 東京・三多摩地
方の部落史を探る 藤沢 靖介
「教育」分科会 差別と向き合う
—人権・同和教育の現状と課題 松浦 利貞
第23回定期総会を開催

◆明治大学博物館友の会会報

〒101-8301東京都千代田区神田駿河台1-1
TEL03-3296-4448 年3000円
www.meiji.ac.jp/museum/
◇18 2008.10 B5 8p
当会20周年記念展覧会盛会の裡に
閉幕
明治大学博物館友の会会員アンケ
ート／2008年度友の会の図書
室管理員及び展示解説員
友の会ボランティア活動に博物館
より感謝状授与 大山 清

2008年度明治大学博物館特別展
「氷河時代の山をひらき、海を
わたる—日本列島人類文化のバ
イオニア期」開催のご案内 島田 和高
商品部門常設展示室コレクション
展「FUKAGAWA BLUE—日本
の陶磁ブランド 深川製磁」 外山 徹
刑事部門展示紹介 刑事部門「収
蔵品紹介 出羽国村山郡関係文
書」展のお知らせ 日比佳代子
分科会活動報告 響灘・周防灘沿
岸の弥生遺跡を訪ねて 磯部 隆信
遺跡見学会 北毛 榛名山麓の古
代遺跡を訪れて 野口 淳

◆目黒区郷土研究 目黒区郷土研究会

〒152-0003東京都目黒区碑文谷4-15-13
長澤英男方 TEL03-3711-3959
◇643 2008.8 B5 8p 150円
6月見学会報告 浅草・向島散策 編集部
柿の木坂の柿(2) 田丸 太郎
会報にみる目黒の昔(9) 編集部
慶応四年五月十五日 橋口 明子
サツマイモ資料館が閉館した 平山 元也
消え行く地上の駅 編集部
東光寺と吉良三代の墓(2) 竹田 務
◇644 2008.9 B5 8p 150円
続・目黒の麦打歌(4) 田丸 太郎
会報にみる目黒の昔(9)「ひもん
やの法力」安東庄次郎 編集部
駒場調練所 橋口 明子
襖中根十二日講の身延講 栗山 佳也
「資料集 私達の町・柿の木坂の
移り変わり」(4)
東光寺と吉良三代の墓(3) 竹田 務
◇645 2008.10 B5 8p 150円
目黒区めぐろ歴史資料館が開館 平山 元也
続・目黒の麦打歌(5) 田丸 太郎

会報にみる目黒の昔(11)「目黒
富士講の発展」三輪善之助／滅
びる目黒富士を悼む」／「目黒富
士」落合次郎／「新富士にあっ
た石碑が別所坂児童遊園に設
置」平山元也
明治元年 橋口 明子
東工大大学祭で見た地震探査探知
機 栗山 佳也
「資料集 私達の町・柿の木坂の
移り変わり」(5)
東光寺と吉良三代の墓(4) 竹田 務

◆小田原史談 小田原史談会

〒256-0816神奈川県小田原市酒匂2-24-13
植田方 TEL0465-48-9072 年3000円
◇215 2008.10 B5 28p
小田原宿の本陣・脇本陣 中村 静夫
酒匂川の治水史に憶う 来年が現
在の酒匂川筋の築造竣工四百年
小野 意雄
西岡遼明—ある文人司法官の生涯
(4) 直江 博子
小田原の郷土史再発見 下田隼人
の事件は、「乱」だったのか！ 石井 啓文
続・酒匂史談(6) 川瀬 速雄
赤岩賢三先生のこと
—続「酒匂史談」を読んで 長田マサ子
葦山・修善寺の史跡を巡りて 田中 豊
小田原の商店街 史料委員会
片岡日記(41) 片岡元左衛門
史談再録(3) 怪異綺談『小田原
史談』第15号(1962年〈昭和37
年〉所載) 門松 利平

◆神奈川県立公文書館だより

〒241-0815横浜市旭区中尾1-6-1
TEL045-364-4456

◇20 2008.9 A4 4p

通常展示「資料にみる神奈川の歴史」
ミニ展示を終えて「オリンピック東京大会とかながわ」「戸長役場の仕事」
ミニ展示「朝鮮通信使と神奈川」
所蔵資料紹介 歴史的公文書「昭和39年度 身体障害者スポーツ関係綴り」(30-5-3-904)／古文書資料 鈴木家文書(素鷲神社)(寄託資料)

◆クロス 常民文化研究会

〒254-0016神奈川県平塚市東八幡2-8-20
西海賢二 年1000円

◇114 2008.8 B5 6p

城下町の民俗の世界
—小田原の年中行事(3) 西海 賢二

◆寒川文書館だより

〒253-0106神奈川県高座郡寒川町宮山135-1 TEL0467-75-3691
www.lib-arc.samukawa.kanagawa.jp

◇4 2008.9 A4 8p

資料紹介
豚の血統書(小谷自治会所蔵) 林 宏美
文書館を支えるボランティア
シリーズ 寒川の先人たち(3)
福羽いちご育ての親—甲賀春吉 渡辺 真治

収蔵庫の資料から(1)／第4回企画展「100年前の発掘調査—記録資料にみる大神塚古墳—」／文書館 最近のできごと

◆湘南考古学同好会々報

〒251-0044神奈川県藤沢市辻堂太平台2-3-

19-104 寺田兼方

◇112 2008.8 B5 28p

企画担当となって 榊原 智之
酔龍愚見録(11)／高松塚古墳は誰のもの(6) 澤田大多郎
韓国旅行記(5) 西野 吉論
さば神社を考える(6) 西村堅一郎
遺跡調査発表会及び速報展見学記 染谷 七重
「第25回 藤沢市遺跡調査発表会」に参加して 白勢順子／林美佐
第3回若手研究者を囲む勉強会に参加して 神藤 泰敬
第1回旧石器時代遺跡探訪—稲荷台地を中心に 白勢 順子
平成20年度湘南考古学同好会定例総会の記録 須田 英一
平成19年度湘南考古学同好会活動の記録 榎本 洋一
横穴墓往還(2)—粕谷横穴墓群 上田 薫

◆DJIレポート 国際資料研究所

〒251-0045神奈川県藤沢市辻堂東海岸3-8-24 TEL0466-31-5061
www.geocities.jp/djearchiv/

◇75・76 2008.9 B5 12p

辞任表明後の9月4日 福田首相有識者会議に出席「政権は変わるが、重要政策は変わりません！」
7月1日有識者会議中間報告公表
DJIの視点 国家事業として取り組むべき公文書管理 有識者会議中間報告への国際資料研究所意見 小川千代子

7月、ICA大会@クアラルンプール140ヵ国1200人参加

やぶにらみ文献紹介

◆日本地名研究所通信

〒213-0001川崎市高津区溝口1-6-10
川崎市生活文化会館4階 TEL044-812-1191
www.8ocn.ne.jp/timeiken/

◇68 2008.10 B5 6p

「神奈川文化賞」受賞にあたって 谷川 健一
第27回全国地名研究者大会(参加者からの感想) 八百比丘尼からの連想 小崎 龍也
「大会」参加の記
九州山地の山嶽から 住吉献太郎
東北アイヌ語地名研究会 気仙沼大会、盛会のうちに終了 太宰 幸子
一周年を迎えて 伊賀での地名研究 辿ってみると 倉元 正一
熊本城築城400年記念『くまもと城下の地名』を出版／伊那谷地名研究会編『伊那谷の地名—風土の人びとを結ぶ文化—』第1号発刊

◆扣之帳 扣之帳刊行会

〒250-0021神奈川県小田原市早川60
青木良一方 TEL0465-22-8852 年2500円

◇21 2008.9 A5 88p 500円

小田原の文学発掘(15) 大衆文学の達人—吉川英治のこと 岸 達志
オオコノハズク・アオバズク—白秋の『木兎の家』のみみずくをめぐって 田代 道彌
酒匂だより 町田紀美子
小田原城と高源院崎姫 今川 徳子
少年金次郎の読書 尾上 武
ボクの映画館(1)「まだ御料簡が、若い、若い」と由良助はいった 平倉 正
来大連の信(7) 水谷 紀之
足柄を散策する(12) 文学遺跡を

尋ねて 我が産土の町・小田原(8) 杉山 博久
足利周辺の碑文を探る(5) 神仏詣での道しるべ—いにしへの道標考 平賀 康雄
強羅ホテルに滞在した山口誓子 佐宗 欣二
時代を語る絵画—ゴヤのこと 本多 博
安叟宗楞(19) 安叟和尚の画賛 青木 良一

◆民具研究 日本民具学会

〒221-8686横浜市神奈川区六角橋3-27-1
神奈川大学日本常民文化研究所内
TEL045-481-5661 年5000円

◇138 2008.9 B5 106p

尺貫法でモノを測る試み—尺相当値尺2寸を例に 石野 律子
絵馬に見る供養の諸相—岩手県下の「供養絵巻」と山形県下の「社寺参詣図絵馬」 松崎 憲三
中世絵画史料にみる鱸・權操作の技法 大野 恵三
野菜籠・果物籠生産時代の竹細工の機械化とメーカーについて(2) 服部 武
足踏式回転脱穀機について—所在調査報告の補足から 三枝 健二
初茸香る都市—金沢近郊里山における茸狩り行楽の実態 大門 哲
御菌生翁甫『日本剝船漫考』の活字写本作りと、それにともなうにわか勉強についての報告 ヘミング味岡
第122回研究会報告「民具研究30年の動向と展望」をめぐって(1)—民具学の行方
趣旨説明 小川 直之
民具学の来し方と今後の展望 田邊 悟
「民具」と「道具」を考えてみたが 朝岡 康二

民俗文化と民俗文化財の間
—コメントに代えて 佐野 賢治
展示紹介

埼玉県立歴史と民俗の博物館
常設展示 第10室 民俗展示
室「一年を生きる—埼玉の祭
りと行事—」 山田 実
府中市郷土の森博物館「府中く
らやみ祭」コーナー誕生—常
設展示室リニューアル事業 小野 一之
土浦市立博物館のリニューアル
について 萩谷 良太

◆民具マンスリー

神奈川大学日本常民文化研究所
〒221-0802横浜市神奈川区六角橋3-27-1
TEL045-481-5661 年3500円

◇485 (41-5) 2008.8 A5 24p 350円
オホーツク海沿岸農家のケガニ捕
り 土田 拓

湖東における家印の機能(2) 松本 晴菜
民具短信『農具便利論』で変身
した関東のエンガ 河野 通明

書籍紹介『民具歳時記』 川口 哲秀
◇486 (41-6) 2008.9 A5 24p 350円
室町期における食品の贈答と容器

盛本 昌広
湖東における家印の機能(3) 松本 晴菜
◇487 (41-7) 2008.10 A5 24p 350円
高校教科書にみる千石通し・万石

通し 河野 通明
民具短信 緋縛りの粹 宮本八恵子
書籍紹介

『琵琶湖博物館資料目録』17号
民俗資料3 衣食住、『琵琶湖
博物館資料目録』18号 民俗

資料4 生産生業 用田 政晴
『高橋文太郎の真実と民族学博

物館—埋もれた国立民族学博
物館前史— 高田 賢

◆悠久

鶴岡八幡宮悠久事務局(発売:おうふう)
〒248-0005神奈川県鎌倉市雪の下2-1-31
TEL0467-22-0315

◇112 2008.8 A5 110p 680円
《特集 厄除け》
口絵 厄除け舞 大田 剛志

エッセイ 静謐な勝負師 内館 牧子
厄と厄神 大島 建彦
正月行事と厄神 田中 宣一

平安時代と文学における厄除け
—寺社参詣を中心に 藤本 勝義
今に生きる厄年・年祝い 佐々木美智子

厄と大祓え 中村 幸弘
コラム 厄除けの源流—陰陽道の
呪符・呪術 戸矢 学

口絵解説 厄神舞 財前 司一
寄稿 春の若木の生命の木 北野 晃
八幡宮紹介

西郷八幡神社(長崎県雲仙市)

中 部

◆高志路 新潟県民俗学会
〒950-2022新潟市西区小針6-29-1
鶴巻武則方 TEL025-231-6100

www.bsnnet.co.jp/jiku/minzoku/
◇368 2008.8 A5 53p
《盆行事特集》

お盆の仏様はどこから来るの 金田 文男
粟島の萱舟作り 岩野 笙子
オショライ様を迎えに行く馬 佐藤 和彦

流通からみた盆行事の変容
—新発田市板山の事例 鈴木 秋彦
五泉市上郷屋長谷川家のお盆 羽下 貴美

越後山古志郷のお盆行事 広井 忠男

心に残る盆踊り 五十嵐 東
佐渡の高灯籠 佐藤 和彦
佐渡の燈籠

—現状と既報告との比較 鶴巻 武則
早川孝太郎の高燈籠スケッチ 池田 哲夫
◇369 2008.10 A5 64p

国指定重要無形民俗文化財 越後
二十村郷の牛の角突きの習俗
「引き分けの理由と取組みのル
ール」 広井 忠男

水澤謙一氏の昔話の世界 金田 文男
聞き書き
高橋モミ婆さんの話より 高橋八十八

内橋潔と漁村実態調査—日本海区
水産研究所所長時代 池田 哲夫

◆良寛だより 全国良寛会会報
〒951-8112新潟市中央区南浜通2 北方文
化博物館新潟分館内 TEL025-222-2262

◇122 2008.10 B5 24p
良寛遺墨解説(80) 加藤 信一
良寛尊像つれづれ(84) 「天を仰

ぐ良寛さま」与板歴史民俗資
料館蔵 橋本徹氏作 浦井 茂
折々の良寛(11) 良寛生誕250周

年記念長岡大会 長谷川義明
良寛生誕250周年記念講演 小沢
昭一氏講演会のお知らせ

NPO法人 良寛の里活性化研究会
小沢昭一と良寛の里をゆく

テレビ新潟の取材同行記 松本 市壽
良寛忌と高野紀行の碑について 吉田 福恵
良寛の寛政八年帰国説は成立しな
い 富澤 信明

良寛鉢叩き説
良寛空白期間の謎を解く(4) 平松 真一
各地良寛会紹介

良寛くらぶ関西 渡辺 宏

小田原良寛会 岩城 葉子
富山県水墨美術館「良寛展」
一万人を超える盛会 柳本 雄司

『良寛修行と円通寺』を出版して 三宅 正廣
トピックス/新刊紹介/会報・会
誌紹介

◆とやま民俗 富山民俗の会
〒930-0881富山市安養坊56甲-1
富山市民俗資料館内 年3000円

◇70 2008.9 A5 26p
灰納屋からみえてくるもの 高木 好美
利賀村奥大勘場民俗点描(2)—熊
のオトシアナ(落とし穴)狐、雪

にまつわる伝承、遊びの伝承、
年中行事のことなど 森 俊
小矢部市「水辺」地名考 中葉 博文

民俗の窓

◆石川れきはく 石川県立歴史博物館
〒920-0963石川県金沢市出羽町3-1
TEL076-262-3236

www.pref.ishikawa.jp/muse/rekihaku/
◇89 2008.9 A4 6p
秋季特別展「御用絵師梅田九栄と
俳諧—芭蕉の教えを守った男」

貸出中の館蔵品/催事日録/れき
はくトリヴィア 中庭ピラミッ
ドの謎

◆若越郷土研究 福井県郷土誌懇談会
〒918-8113福井県福井市下馬町51-11
TEL0776-33-8860 年3500円

◇284 (53-1) 2008.8 B5 57p
越前の禅宗草創期について 池田 正男
白井光太郎と福井県出身の植物病
理学者達、その時代 山田 昌雄

◆飯田市歴史研ニュース 飯田市歴史研究所
〒395-0002長野県飯田市上郷飯沼3145
TEL0265-53-4670

www.city.iida.nagano.jp/iuhr/

◇35 2008.8 A4 4p

第6回飯田市地域史研究集会を開
催します／関連企画 飯田の主

要な古墳・考古資料館見学会

第1回地域史惣寄合—地域史の現

在／座光寺史料調査会を行いま

した／近刊紹介『飯田市歴史研

究所年報6』／地域史講座

リレーエッセイ 古代の伊那谷独

自の社会像とは…? 土生田純之

市民の声

歴史史料調査会に参加して 宮下 淳子

◇36 2008.10 A4 4p

報告 第6回飯田市地域史研究集

会「伊那谷の古墳と古代の舍

人軍団」をテーマにシンポジウ

ム開催／飯田アカデミア／飯田

歴史賞2008／歴史の面白さと

大切さを知って／歴史ゼミ

市民の声 100年後にはどうなっ

ているのだろうか? 濱田 里美

新刊紹介『下伊那のなかの満洲

聞き書き報告集6』／地域史講

座 みるよむまなぶ飯田・下伊

那の歴史

◆伊那 伊那史学会

〒395-0081長野県飯田市宮ノ上4048

TEL0265-22-6017 年5500円

◇963 (56-8) 2008.8 A5 50p 500円

口絵 藤本四八が撮影した徴兵検

査 榎村 洋介

〈八月のおもい〉

藤本四八が撮影した戦時下の日本

—日本工房時代の写真より 榎村 洋介

土空の思い出 棚田 芳雄

付 海軍特攻隊員 棚田茂実の遺

書 棚田 芳雄

一枚の葉書—62年ぶりの邂逅 塩沢 茂実

付 「一枚の葉書」の当事者として

山田 博章

〈鎮魂の碑〉

濁り沢の水害事故「供養塔」 原 董

三六災の記録—飯田市大門町野底

橋近辺での思い出 熊崎 一男

〈掘り起こす〉

ウェストンに見る旅行免状制度の

一断面 川村 宏

鳥居のバランス 松島 信幸

◇964 (56-9) 2008.9 A5 50p 500円

口絵 上黒田獅子舞のこと 橋都 正

三河民権国家事件と発覚地の飯田

地方(3の1) 北原 明文

中手田出土獣脚付壺の周辺 桐原 健

木曾亀こと坂田亀吉の建築を追う

(4) 林 登美人

宗教教育者市村与市先生の人と業

績 山内 尚巳

あきはみちに寄せる人々の心(21)

—鈴木屋の宿帳を通して(5) 大原千和喜

消えていくことばの文化(16)

「らんごく」 井上 伸児

◇965 (56-10) 2008.10 A5 50p 500円

《自然特集》

口絵 田中芳男の胸像建つ 北城 節雄

市田柿を生んだ処と人とその時代

北沢 富夫

美しい自然は先人からの賜りもの

—川は友だちであった 大原千和喜

飯伊地方の野鳥今昔(2)

—オオヨシキリと静話会 下原 恒男

伊那谷は今まさに桃源郷 木下 進

次代を担う若き研究者たち(4)

足跡化石からアケボノゾウの複

製作リ 下久堅小学校五年明組

◆伊那路 上伊那郷土研究会

〒396-0021長野県伊那市伊那7799-2

TEL0265-78-6719 年5000円

◇619 (52-8) 2008.8 A5 40p 500円

《終戦特集号》

伊那市の旧日本陸軍飛行場跡地を

訪ねて 金 廣烈

金廣烈氏来伊と地域研究の課題 久保田 諒

旧制伊那中学校(現伊那北高校)生の

戦時体験

プロローグ

「学徒勤労令」による動員と名

古屋での空襲罹災メモ 原 隆男

名古屋空襲罹災体験 田中 三郎

学徒動員顛末記 矢島 太郎

工場動員中のこと 武井 信典

俺たちの「学徒勤労令」 福田 悦蔵

戦争、この残酷さ空しさ 三沢 貞雄

太平洋戦争期のわが中学時代 井口 源吾

戦時下の中学校生活 清水 一郎

興亜学生勤労報国際・満州建設勤

労奉仕隊の農業学校隊に参加し

て—上伊那農業学校(現上農高

校) 矢澤 喬治

日記が語る伊那高等女学校(現伊

那弥生ヶ丘高校)生の勤労奉仕

梅垣久子／平出利男

上伊那で見られる日本古来の植物

(24) コバノガマズミ 小田切英雄

新刊紹介『平和への祈り』駒ヶ根

市教育委員会刊

『伊那路』総目録(2)刊行なる

◇620 (52-9) 2008.9 A5 40p 500円

小林勇、横浜事件、大江・岩波評

訟—かつての轍を踏むまじ 今井 康之

トラック島戦場体験記 山口英美／矢島太郎

丸丁池上家文書にみる『御公儀

様・御領主様御触留』について

(17) 長谷川正次

「源氏三枕」の筆者本について 桃澤 匡行

古文書の窓(85)

上伊那郷中俚約定書のこと 三浦 孝美

◇621 (52-10) 2008.10 A5 40p 500円

《民俗特集号》

遊びの空間から読み取る 三石 稔

田畑区・御園区等に伝わる諏訪大

社上社御頭祭への奉仕 松澤英太郎

祖父の日記に見る明治期の刈敷山

作業の実情 矢島 信之

機械が解明してくれたらわらべ歌

のリズム 竹淵 修二

飯島町鳥居原のいば神様 中島 淑雄

師匠の背中(2)より 若林 徹男

文化短信「小野のシダレグリ自

生地」保全友の会 三浦 孝美

上伊那遺跡めぐり(64) 中世遺跡

として著名な堂垣外遺跡 飯塚 政美

◆伊那民俗 柳田国男記念伊那民俗学研究所

〒395-0034長野県飯田市追手町2-655

飯田市美術博物館内 TEL0265-22-8118

3000円

◇74 2008.9 B5 8p

いま、祭が減じる 星野 和彦

飯田市地域史研究事業 民俗報告

書3『遠山谷南部の民俗』に

寄せて

書評『遠山谷南部の民俗』を読

む 倉石 忠彦

民俗報告書発刊に寄せて 深尾善一郎

地域に学ぶ 山崎 志朗

柳田国男の『信州随筆』研究(14)

新野の盆踊その2 橋部 正
◇16 2008.10 A5 82p
きだみのると柳田国男―「擬制」
の打破としての民俗学の実践 室井 康成
『先祖の話』朱雀本校訂一覽―大
月松二「柳田国男聴書」を受け
て 田中 正明
柳田国男「飯山講演」(昭和3年)
柳田国男の「飯山講演」につい
て 大月 和彦
飯山講演「妖怪変化」と「郷土
研究」の講演筆記 大月 松二

◆信濃 信濃史学会

〒390-0805長野県松本市清水1-9-607
TEL0263-36-1785 年8400円
www.shinano-shigakukai.com
◇703 (60-8) 2008.8 A5 82p 900円
佐久間象山像の成立をめぐる 原田 和彦
仁科五郎盛信の歴史的位位置と役割
小林 茂喜
松代藩藩主の手紙(3) 仁科 叔子
雲南少数民族と日本人―景頗族載
仮支族をどう理解するか 柳沢 賢次
信濃史学会2008(平成20)年度定期
総会の報告
◇704 (60-9) 2008.9 A5 86p 900円
大番の組人数と合力米支給につい
て 飯島 千秋
丸山久成の「日記」の考察(1)―
『赤報記』との関係について 児玉 卓文
信州安曇野神宮御厨致―仁科御厨
と矢原御厨の設定について 新
史料の検証 草間 美登
足釜私考 桐原 健
法燈圓明国師 心地房覚心―鎌倉
時代中期禪僧の一樣相 藤牧 志津
◇705 (60-10) 2008.10 A5 88p 900円

《中世特集号 テーマ「隣国・他国から見た
戦国期信濃」
上杉憲政と村上義清の反武田「上
信同盟」―天文16～17年におけ
る 峰岸 純夫
戦国大名武田家と市河家 西川 広平
戦国期信濃伴野氏の基礎的考察 丸島 和洋
越後永正の内乱と信濃 前嶋 敏
直江兼継と信濃侍―中近世移行期
の北信濃国衆の動向 村石 正行
物くさ太郎のモデル像について
(上)―帰ってきた小笠原氏 浜野 安則

◆千曲 ふるさとに学ぶ 東信史学会

〒386-0024 長野県上田市大手2-7-13 上
小教育会館内 TEL0268-24-2182 年3000円
◇138 2008.7 A5 59p
養蚕以後の女性の家庭外労働
―『川西時報』からの考察 丸田ハツ子
伝「盗人窟」 迷想(1)―佐久平北
部に見る古代堰痕跡の検証 岡村 知彦
画僧・玉林寺岷山 小林 太郎
アサマ(浅間)について 柳沢 賢次
文化財講座 第51回 銅製御正体
(上田市指定文化財) 和根崎 剛
古文書解読講座 第131回 寺島 隆
平成20年度 東信史学会総会報告
◇139 2008.10 A5 70p
《特集号 明治維新と農民運動》
「昔誠の習いかな」―反骨に満ちた
義民の伝統的精神 横澤 瑛
上田藩の世直し騒動について
―洗馬宿の庄屋達の記録から 堀内 泰
川西騒動と佐久市望月 佐藤純一郎
小諸領内 川西騒動について 土屋 仕
佐久からみた秩父事件 井出正義/井出武彦
明治初期の軽井沢動静について 金井喜平次
維新の魁となった赤報隊の桜井常

五郎―新史料から桜井の行跡を
辿る 臼井 明
古文書解読講座 第132回

◆テラス 飯田市美術博物館ニュース
〒395-0034長野県飯田市追手町2-655 TEL
0265-22-8118 www.iida-museum.org

◇80 2008.9 A4 4p
開館20周年記念特別展 江戸南画
の潮流Ⅱ/開館20周年記念特別
陳列 伊那谷の仏教絵画/開館
20周年記念企画展 ハナノキ湿
地の自然史/上郷考古博物館平
成20年度秋期展示 風越山麓の
考古学
館長コラム スケッチのすすめ 滝沢 具幸

◆長野 長野郷土史研究会

〒380-0905長野市七瀬南部14-7
TEL026-224-2673 年3000円
www.janis.or.jp/users/kyodoshi/
◇260 2008.8 A5 64p 500円
《特集 「長野」執筆者別索引》
「長野」創刊号～260号
発行年月一覧
「長野」執筆者別索引
創刊号～260号
「長野」201～260号目次
講演「真田三代記」(15) 小林 一郎
◇261 2008.10 A5 64p 500円
《特集 映画館の今昔(3)》
占領期長野市におけるアメリカ映
画の上映 市営中央映画劇場を
めぐって 飯岡 詩朗
日本の映画文化を伝える都市長野
小林竜太郎
文学に登場する善光寺 八木 輝夫
甘粕近江守長重と和田喜兵衛 土井 重男

講演「真田三代記」(16) 小林 一郎

◆長野県民俗の会通信

〒390-0222松本市入山辺1403 木下守方
TEL0263-50-9911 年5000円
www.k2.dion.ne.jp/~folklore/
◇207 2008.9 B5 8p
民俗の「創造」ということ 倉石 忠彦
過疎化と文化財保護のあり方 多田井幸視

◆岐阜市歴史博物館だより

〒500-8003岐阜市大宮町2-18-1
岐阜公園内 TEL058-265-0010
◇69 2008.8 A4 8p
特別展「風の画家 中島潔が描く
金子みすゞの世界―詩人・金子
みすゞからパリそして日本の四
季まで―」
特別展「兼定と兼元―戦国時代の
美濃刀―」
加藤栄三・東一記念美術館「長縄
士郎展」
コスプレ市場の新しいアイテム
研究ノート
古代律令制下の「飛騨工」 吉田 晋石
館蔵資料紹介 職人尽図

◆美濃民俗 美濃民俗文化の会

〒503-2227岐阜県大垣市青野町1180-1
大垣歴史民俗資料館内 TEL0584-91-5447
年1000円
◇495 2008.8 B5 4p 250円
ヒョウタン考古学 村上 圭二
殿様のくらし(64) 十万石大垣藩
主 若殿氏正の正月(2) 清水 進
続「大垣駅」よもやまばなし
東海道線の誕生 堤 正樹
美しい国 林 佐多哲

- ◇496 2008.9 B5 6p 250円
心に響くアローハ・オエ 大内 勲
日本武尊の最期 林 佐多哲
殿様のくらし(65) 十万石大垣藩
主 若殿氏正の正月(3) 清水 進
西美濃地名考(2) 村上 圭二
家族の絆(きずな) 佐竹小夜子
- ◇497 2008.10 B5 6p 250円
「車山」の文字考(1) 藤田 黎三
畿内と美濃 林 佐多哲
殿様のくらし(66) 十万石大垣藩
主 若殿氏正の正月(4) 清水 進
塩の民俗 白は聖なる色 福永 円澄
- ◆月刊通信ふるさとの民俗を語る会
民俗文化研究所
〒438-0086静岡県磐田市見付3532
TEL0538-32-3546
www4.tokai.or.jp/child-c.j/
- ◇14 2008.8 A4 4p
大般若経を所持する田能 吉川 祐子
- ◇15 2008.8 A4 4p
下田八幡神社の祭り 吉川 祐子
- ◇16 2008.9 A4 4p
伊豆の国市多田の山の神講と二杯
盛り 吉川 祐子
- ◇17 2008.10 A4 4p
伊東市富戸の鹿島踊り 吉川 祐子
- ◆静岡県近代史研究会会報
〒432-8011浜松市中区城北3-5-1 静岡大学
情報学部 荒川章二研究室 年4000円
- ◇359 2008.8 B5 4p 200円
海野普吉没後40周年記念集會報告
橋本 誠一
海野普吉先生のこと 大石 進
- ◇360 2008.9 B5 8p 200円
創立30周年 第31回総会を開催し

- ます
「文明の眼差し」—ひろたまさき氏
の講演に寄せて 小池 善之
(各団体・個人よりのメッセージ)
静岡県近代史研究会創立30周年に
寄せて 平野 明夫
佐藤 弘
30年の歴史に敬意を表します 加藤 一夫
新刊紹介 青山薫『「セックスワ
ーカー」とは誰か』—移住労働・
性労働・人身取引の構造と経験
平井 和子
追悼 竹山恭二氏 小池 善之
9月例会レジュメ
岡田良一郎の思想と行動 足立洋一郎
海野普吉没後40周年記念シンポ
に参加して 小田 成光
本会創立30周年 会報の360号達成
市原 正恵
- ◇361 2008.10 B5 8p 200円
創立30周年を迎えて 荒川 章二
30周年記念講演会レジュメ
近代部落史研究のメタ・ヒスト
リー 黒川みどり
近代天皇制と毒婦物語 ひろたまさき
(各団体・個人よりのメッセージ)
貴会の創立30周年を祝う 向坂 鋼二
30周年をお祝いして 森田 香司
静岡県近代史研究会の30周年に接
して 大橋 聖子
静岡県近代史研究会創立30周年を
祝して 豆州研究社歴史通信部
「2008年平和のための富士戦争展」
を見学して 成瀬 公策
移住しなかった静岡藩士—田中正
弘『幕末維新期の社会変革と群
像』によせて 樋口 雄彦
書籍紹介 黒川みどり編著『眼

差される者』の近代—部落民・
都市下層・ハンセン病気・エス
ニシティ』 鈴木 雅子

◆静岡県民俗学会会報

- 〒420-0866静岡市葵区西草深町21-7-302
www4.tokai.or.jp/s-folklore/
◇128 2008.9 A4 8p
食の民俗—静岡県
「オハタキ」考(2) 富山 昭
熱海芸妓事情—桐竹京子の乙女文
楽を追って 神田 朝美
石部の地曳網におけるシロワケ 川口 円子
シリーズ食(8) ソーダガツオ
ウズワの煮味噌 外立まゆみ
静岡の民俗語彙・方言短信／博物
館情報／シンポジウムのお知らせ／まつり・イベント情報

◆静岡歴史研究会 静岡県歴史研究会

- 〒421-0301静岡県榛原郡吉田町住吉2767-3
鈴木康弘方 TEL0548-32-0231
◇123 2008.10 B5 16p
時々雨が降る降る 大阪府藤井
寺・古市古墳群縦断 一泊二日
史跡見学会 大川 誠一
第81回研究会 田中、杉山、望月
各氏発表 田中春二氏「庄内の
散歩道」の概要／杉山承作氏「米
騒動と憲兵隊の態度」の概要／
望月古直氏「神武天皇二年の定
功行賞」の概要
戦時下の思い出 英語の使用禁止
川勝 高士

◆豆州歴史通信 豆州研究社歴史通信部

- 〒414-0001静岡県伊東市宇佐見1976-10
◇420 2008.9 B5 4p

叛骨の生涯を弔辞にして 日本社
会党OB会河嶋清 1923(大正
12)年、伊東で 東豆新報発刊
の宮下恭介

- ◇421 2008.9 B5 4p
宮下恭介の伊豆で左翼運動 多彩
な経営(商店・新聞社・自動車)
など 1910(明治42)年頃、伊東
町に移住 宮井呉服店という店
名で洋服も商う

- ◇422 2008.10 B5 4p
続々宮下恭介の政治活動 1946
(昭和21)年、敗戦直後の衆議院
選挙 静岡県から日本社会党政
治への情熱断ち切れず立候補
敗戦直後静岡県国会議員選挙の様
相

- ◇423 2008.10 B5 4p
続・民主主義日本の政治を私に
政治活動家次々と登場して主張
1946(昭和21)年、敗戦後 衆
議院選地区・定員・候補者数

- ◇424 2008.11 B5 4p
静岡県賀茂郡松崎町避病院 約半
世紀前にあった伝染病院 地方
財政には大きな負担 山本 和彦
読者が語る学徒動員の思い出

- ◇425 2008.11 B5 4p
終戦1945=昭和20年8月
学徒動員の伊豆各中学校一覧表
この時代(昭和17~20・8・15)の
流行歌 一番だけ

◆駿河 駿河郷土史研究会

- 〒417-0061静岡県富士市伝法66-2
富士市立博物館内 TEL0545-21-3380

- ◇臨時号 2008.9 A4 199p

《吉原宿を中心とした宿場資料》

宿場研究部会の学習資料の発行に
ついて 渡辺 繁治
宿場研究部会の年度別学習経過
吉原宿概要および各宿場との比較
吉原宿の伝馬制度
宿場財政と助郷村の困窮
各種資料

◆あつた 熱田神宮庁

〒456-8585名古屋市中区熱田区神宮1-1-1
TEL052-671-4151 www.atsutajingu.or.jp

◇219 2008.7 A5 33p (抄)

熱田社の和歌と文学(20)

—上方刊年中行事書の場合 八木意知男
熱田神宮境域拡張整備と伊東忠太
工学博士(前) 飛岡 秀樹

◇220 2008.10 A5 28p (抄)

熱田社の和歌と文学(21)

—梅月堂宣阿の場合 八木意知男
熱田神宮境域拡張整備と伊東忠太
工学博士(後) 飛岡 秀樹

◆郷土文化 名古屋郷土文化会

〒466-0064名古屋市中区鶴舞1-1-155
名古屋市中区鶴舞中央図書館 TEL052-741-9822
年3000円

◇209 (63-1) 2008.8 A5 100p 1500円

織田政権のモラトリアムと「覇者」
の類型(下) 小林 正信
濃姫の死去の時と場所をめぐって
(続) 横山 住雄

西尾市岩瀬文庫本『東海道絵巻』
の道を訪ねてみませんか—なご
や街道・駿河街道 加藤 浩
図絵に見る尾張の街道風景(2) 櫻井 芳昭
春日井市と名古屋市中山区等の狂
俳文芸(2)—狂俳からみた江戸
時代の農民(民衆)の生活と心情

大野 哲夫

残し忘れの文化誌(2)

西筑摩郡の覚明伝説 入谷 哲夫
村鏡について(後) 栗木 英次

◆文化誌 碧 碧の会

〒446-0013愛知県安城市東別所町戌新畑
1-53 河村方 TEL0566-76-0204

◇23 2008.10 B5 52p 500円(抄)

八重田和久エッセー集 われわれ
にとって誇りとは何か／六十三
回目の敗戦記念日に／靖国神社
寸感／オリンピック・スポーツ

マンの哀しき祭典(採点) 八重田和久
とっておきのパズル 米川 五郎
粉末ジュースについて 粕渕 宏昭
盛田K.K. 流通と戦後の展開 中城 積
続 トルコ食紀行 嶋野 卓
忘れ難き「話者」の方たちと(2) 河村 和男

◆まつり通信 まつり同好会

〒496-8049愛知県愛西市塩田町砂山25
TEL0567-37-0441 年5000円

◇537 (48-5) 2008.9 B5 8p 600円

入曾の獅子舞 石川 博司
写真展 最後の花祭り
—民俗芸能廃絶への警鐘 山崎 一司
恐山と下北体験の旅 藤原 恵子
民俗芸能情報

◆猿田彦大神フォーラム年報 あらはれ

〒516-0026三重県伊勢市宇治浦田2-1-10
猿田彦神社 TEL0596-22-2554
www.convention.co.jp/sarutahiko/

◇11 2008.10 A4 192p 1500円

宇治土公貞明宮司を偲んで
鎌田東二／細野晴臣
サルタヒコ修験道の深化を求めて

鎌田 東二

『殞の森』の神話的世界 河瀬直美／橋本雅之
長江文明と日本神話の深い関係 安田 喜憲
一筆啓上

榎本神社と猿田彦大神 岡本 彰夫
猿田彦神社とトビウオ 後藤 明

サルタヒコの中世その2 若狭・
越前から近江へ 天狗・獅子、
赤子—愛し方・サルタヒコを追
う 西川照子／永田陽
シンポジウム「翁王と猿田彦大神」

山折哲雄／橋本裕之／櫻井
治男／今井達／鎌田東二

サルタヒコ白書プロジェクト

西川照子／橋本雅之／原章／三上敏視
猿田彦大神フォーラム 活動概況
(2007年9月～2008年9月)

神楽紀行

行波の神舞・遠山霜月まつり 三上 敏視
神楽の地平に見えるもの

—サルタヒコ 渡守 希
〈第10回「みちひらき研究／創作助成」助成
論文〉

祭神サルタヒコの謎に迫る—神社
・祭礼にみるサルタヒコと銅鐸
文化 嶋田進／望月茂

モノノケの民族生態学—国家に抗
するモノノケたち 大石 高典
中国少数民族神話から見た猿田彦

の原像—猿祖神話との関連を
めぐって 斧原 孝守

猿田彦土中神社プロジェクト

時間ノ夢—地から天への旅 鈴木寅二啓之

◆織豊期研究 織豊期研究会

〒514-8507三重県津市栗真町屋町1577
三重大学教育学部 日本史研究室内
TEL059-231-9218

◇10 2008.10 B5 100p

巻頭言 10周年を迎えて 三鬼清一郎
《特集 織豊期の権力と地域社会》

天正16年聚楽行幸と公家領給与 下村 信博
織豊期大名軍制と交戦権 藤田 達生
熊野北部の木材生産地とその地域

構造—中近世以降期の尾鷲 伊藤 裕偉
織豊期における濃尾国境地域 山本 浩樹
戦場をあるく—戦場調査ガイド

伊勢国一志郡戸木城と周辺を巡
る 太田 光俊
書評 宮島敬一著『人物叢書 浅
井氏三代』 西島 太郎

◆史料 皇學館大学史料編纂所報

〒516-8555三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL0596-22-6462

◇216 2008.8 B5 12p 200円

志摩市 土井ヶ原島遺跡について
山本 達也

彙報 史料編纂所公開講座「史料

の世界 古代の典籍」開催

◇217 2008.10 B5 8p 200円

孝徳天皇朝の阿倍氏
—阿倍倉梯麻呂を中心に 荊木 美行
鈴鹿市上野町一反通遺跡採集の石

製紡錘車(紡輪)について 岡田 登
彙報 福嶋御塩焼大夫文書(八幡
朝見神社所蔵)の調査

近 畿

◆湖国と文化 (財)滋賀県文化振興事業団

〒520-0044滋賀県大津市京町3-4-22
TEL077-522-8369 年3160円
www.shiga-bunshin.or.jp

◇125 2008.10 B5 96p 630円

特集 近江・白拍子漂泊 井上由理子
滋賀のかくれ里(9) いかいゆり子

興味津津 私の近江(2) MOTOKO
あの町この町(22) 湖北町 今関 信子
湖国レディス・アイ(17) 小川加津代
湖国 人・物・風景(15) 苗村 和正
ふるさと四季の味(21) 小川 久子
記者つれづれ日誌(5) 鶴飼 修三
湖国と源氏物語(14) 鈴木 ゆみ
ごきげんさん(26) 川村和彦さん MOTOKO
北から南から

北村五十鈴／江竜喜信／西川清子
／奥田安都佐／袖森茂／今井信

再発見！滋賀の文学(4) 井上 次雄
一寸一服 水口・古代人の智慧 和田 耕馬
大谷昭宏のハートツーハート(19)

一人の百歩より百人の一步

大谷昭宏／田村元

水源の森を訪ねて(24) 檀上 俊雄
伝承に見る淡海(23) 黄地百合子
やんちゃ坊主伝(4) 高橋 勉
滋賀の伝説と民話「甲賀三郎伝説」

渡邊守順／斉藤裕子

編集長対談 湖に生きる(30) あ
いあいA I 滋賀編集長 植田耕
司さん 根津眞澄／馬場和実
続・ふるさと歴史散歩「一休修行
の寺」—大津市堅田町 早藤 貞二
近江の海 おーい老いと呼んでみ
る(14) 熊谷栄三郎

◆彦根城博物館だより

〒522-0061滋賀県彦根市金亀町1-1

TEL0749-22-6100

www.city.hikone.shiga.jp/museum/

◇82 2008.9 A4 4p

人権学習シリーズ(例) 江戸時代の
医療／シリーズ「直弼発見！」
巻の3 井伊直弼の茶の湯／シ
リーズ「直弼発見！」巻の4

井伊直弼の家族／テーマ展 新
収蔵の資料

金亀玉鶴 井伊直亮と雅楽 齋藤 望

直弼のこころ—井伊直弼ゆかりの
作品(2) 井伊直弼書状 犬塚
外記宛て

教育普及活動のひとつま 平成20
年度の「はくぶつかんへ行こう」
／講座・教室 井伊直弼と開国
150年祭記念 大名カルチャー
学講座「井伊直弼の毎日」

◆民俗文化 滋賀民俗学会

〒520-1121滋賀県高島市勝野1681-5

TEL0740-36-1414 年4800円

◇539 2008.8 B5 12p 420円

国際平和のために人類の歴史を見

直すことが求められている 菅沼晃次郎
樟の株の湯(2) 北野 晃
月と民俗(9)—月の魔力 吉岡 郁夫
建部家より到来の家蔵文書と建部

伝内賢文(5) 中村 武三
近江伊吹山系の伝承(2)

—初神楽と天野安川 馬場杉右衛門
教科書で学んだ飛行機のこと 大村 進
島の生活(58)—姫路市家島町 奥山 芳夫
鳶口について 粕渕 宏昭
カスタネットについて 粕渕 宏昭

◇540 2008.9 B5 12p 420円

民族(国)闘争に歯止めのかからな
い—神教部族—人類はすべて同

一思想ではない 菅沼晃次郎
建部家より到来の家蔵文書と建部
伝内賢文(6) 中村 武三

近江伊吹山系の伝承(3)

—猿田彦と木花佐久夜姫 馬場杉右衛門
ホハレ峠越え門入キャンプ(2)—
旧徳山村湖に沈んだ村 戸入の

現況 浅原 昭生
島の生活(59)—姫路市家島町 奥山 芳夫
櫛の俗信 北野 晃
月刊「民俗文化」創刊45周年に思
う 粕渕 宏昭
日本人の民族性を教えてくれた近
江人—本誌発行45周年を感謝し
て 菅沼晃次郎

◇541 2008.10 B5 12p 420円

白鬚の岩飛び—高島市鶴川 兼康 保明
建部伝内賢文と八景詩(1) 中村 武三
近江伊吹山系の伝承(4)

—竹生島の語源と小白の泉 馬場杉右衛門
彦根・長浜の恵比寿講・又は「え
びすこ」について 粕渕 宏昭

民具資料 コーヒーミルクとチー
ズカッター 粕渕 宏昭

島の生活(60)—姫路市家島町 奥山 芳夫
「民俗文化」発行45周年を祝して 東郷 正文
月刊「民俗文化」発行45周年に寄
せて 高島民具クラブ

日本人の民族性を教えてくれた近
江人(2)—本誌発行45周年を感
謝して 菅沼晃次郎

◆古代史の海 「古代史の海」の会

〒615-8194京都市西京区川島栗田町22

中村修方 FAX075-392-3743 年4000円

www.geocities.jp/kodaishinoumi2005/

◇53 2008.9 A5 112p 1500円

巻頭言
ネット上での批判について 中村 修
宝賀寿男氏に答える 白崎昭一郎
上代特殊仮名の根本的解明(8) 坂田 隆

二つの嵩山忌寸氏—日本における
孟子と張良の子孫たち 宝賀 寿男
会員ひろば アンデス通信(6) 市木 尚利
紀年法についての二、三のコメン

ト 下司 和男
「上宮記市云」について 山口 順久
茨木とヲホド大王 中村 修
熊本県の石棚を持つ古墳 重村 英雄
北陸の遺跡再訪—杉谷4号四隅突
出形墳丘墓、王塚、千坊山遺跡
群 中井かをり
縄文人の発見—共生思想の淵源 大谷 幸市

◆京都市政史編さん通信

京都市政史編さん委員会
〒602-0867京都市上京区寺町通丸太町上る

松蔭町138-1 京都市歴史資料館内 TEL
075-241-4312 city.kYoto.jp/somu/rekishi/

◇32 2008.8 A4 8p

日露戦争前後における浜岡光哲の
動向(下)完 福家 崇洋

◆史迹と美術 史迹美術同致会

〒606-8048京都市上京区下立売通小川東入
西大路町146 中西ビル内

FAX075-441-3159 年8000円

◇787 (78-7) 2008.8 A5 42p 960円

大佛開眼以前(中)
—法華堂、大倭国分寺 田寺 英治
鰐口の銘文(2) 愛甲 昇寛

鬼瓦百選(66) 小林 章男
普陀山・寧波・天台山から杭州訪
問記(1) 村上 泰昭

第925回例会 京都御苑周辺のご
美術と近代建築 矢ヶ崎善太郎

◇788 (78-8) 2008.9 A5 42 960p

大佛開眼以前(下)
—聖武・道慈・行基 田寺 英治
鬼瓦百選(67) 小林 章男

鰐口の銘文(3) 愛甲 昇寛
第926回例会
南禅寺界隈を訪ねて 加藤 友規

〈追悼文集 故大鳥居総夫氏を偲んで〉
悼 齊藤 善夫
故大鳥居総夫氏を偲んで 中西 亨
大鳥居総夫氏を悼む 奥村 隆彦
故大鳥居総夫名誉副会長を偲ぶ 齊藤 孝
大鳥居総夫名誉副会長を偲んで 東 暲
大鳥居総夫名誉副会長へ 矢ヶ崎善太郎
感謝をこめて 尼崎 博正
大鳥居総夫さんの『史迹と美術』
掲載記事一覧

◆都藝泥布 京都地名研究会通信
〒617-0002京都府向日市寺戸町二枚田
12-46 網本逸雄方 TEL075-933-5667
年3000円 www.geocities.jp/kyotochime/
◇26 2008.8 A4 8p
第22回地名フォーラム報告（神社
と地名と三輪明神と三輪 生谷
陽之助／丹生・壬生と水源関連
地名 網本逸雄／花山院と比叡
山「かまくら」笹川博司）
地名随想「俳枕」地名と俳句の
結婚（後） 尾崎聖二郎
第23回京都地名フォーラムご案内
新刊紹介／『京都の地名検証3』
編集だより

◆立命館大学国際平和ミュージアムだより
〒603-8577京都市北区等持院北町56-1
TEL075-465-8151
www.ritsumei.ac.jp/kic/a06/
◇44 (16-1) 2008.8 A4 24p
スポット 蒙古連合自治政府肇建
功労章とその証書
巻頭つれづれ『語り伝える空襲』
全5巻を執筆して 安齋 育郎
館長だより 映像と表象—映像か
らどんな情報を読み取るのか 高杉 巴彦

ミニ企画展開催報告（2008年3月
～2008年8月）
ここが見どころ ベトナム戦争—
ベトナムさん・ドクさんとの出会い
桂 良太郎
運営委員リレー連載 五条坂を歩
く—考古学と戦争と伝統工芸 木立 雅朗
ミュージアムおすすめの一冊 今
橋映子著『フォト・リテラシー
—報道写真と読む倫理』
2008年度特別展「ベトナム反戦ボ
スター展—アーティストからの
メッセージ」／夏休み親子企画
「へいわ」ってなに??2008／小・
中学校教員対象下見見学会／博
物館実習受け入れ／『花はどこ
へいった』映画上映会

◆泉佐野の歴史と今を知る会会報
〒596-0845大阪府岸和田市阿間河滝1425
井田寿邦方 TEL0724-28-0204 年1200円
◇248 2008.8 B5 14p
日根野氏系図を考える(6) 井田 寿邦
聞書・波切神社と岸和田南町・浜
七町(上) 中崎才吉／北山理
◇249 2008.9 B5 12p
藤田さんを悼む 事務局
追悼 樋野 修司
藤田さんを偲んで 佐野 順三
藤田正篤さんの思い出 北山 理
いつもそこに 井田 寿邦
藤田正篤氏を悼む 櫻井 敏雄
聞書・波切神社と岸和田南町・浜
七町(下) 中崎才吉／北山理
戦時体制下の佐野町—町葬(1) 樋野 修司
◇250 2008.10 B5 12p
別系統の美濃日根野氏系譜 井田 寿邦
戦時体制下の佐野町—町葬(2) 樋野 修司

移行期の群像(63)
寺僧の人々(24) 井田 寿邦

◆大阪の歴史 大阪市史編纂所
〒550-0014大阪市西区北堀江4-3-2
大阪市立中央図書館内 TEL06-6539-3333
◇71 2008.8 A5 152p 700円
《特集 堂島・中之島とその周辺》
描かれた堂島—画家は都市に何を
読みとるか 橋爪 節也
中之島の自由亭ホテルと草野丈吉
について 堀田 暁生
堂島と中之島そのミニ知識
堂島米市 野高 宏之
蔵屋敷 上田 長生
渡辺橋 生駒 孝臣
中之島の始まり 藤田 実
中之島公園 藤田 実
近代製紙業発祥の地 古川 武志
事件二題（梅檀木橋と美人の首
・皮を残した女賊） 古川 武志
戦禍の日本銀行大阪支店 松岡 弘之
大坂町奉行与力における吏と武の
意識 野高 宏之
大坂城定番与力・同心の支配形態
—天明六年大坂城玉造口定番同
心の狼藉事件の顛末から 川崎 讓司
明治・大正期の大阪落語戦争—新
聞記事から見た大阪落語会 堀田 藍
みおつくし 御役録 上田 長生
書評・新刊紹介『大大阪イメージ』
『水都大阪民俗誌』『近代大阪の
都市社会構造』『大阪俘虜収容
所の研究』

◆大阪民衆史研究 大阪民衆史研究会
〒572-0824大阪府寝屋川市萱島東1-6-17
TEL072-823-2486

www.eonet.ne.jp/~minshusi/
◇62 2008.9 A5 104p 1000円
講演 府民・行政・博物館—橋下
府政の文化行政を考える 渡辺 武
雑賀孫市で街おこし
—「孫市の会」のたたかい 白石 博則
中国農民運動の先駆者・彭湃につ
いて 木津 力松
北鮮火田民と敗戦難民の記録(上)
滝川 恵三
2007年夏「タイ・ラオス自転車ひ
とり旅」 高群 哲夫
阪南市内に点在した避難舎(上)—
所在地の特定とその位置から見
えてくる社会 中川 義朗
グラビア 旧正月を祝う「大阪春
節祭」—08・2・10 大阪中華
学校を会場に 二宮 一郎

◆大阪歴史懇談会会報
〒596-8691大阪府岸和田郵便局私書箱18号
FAX0724-38-4487 年5000円
www.homepage2.nifty.com/rekikon/
◇288 (25-8) 2008.8 B5 8p
夏休みが一日長い訳は 上田 雄
7月例会報告(第263回)「16世紀の
和泉国の政治勢力」／古文書講
座 第111回「奉公人請状」
大東亜戦争の記録
—釜石艦砲射撃に思う 松坂 定徳
中之島図書館のこと 松本 正彦
見学会こぼれ話 源氏物語千年紀
によせて 紫式部と父・為時 稲垣 隆造
◇289 (25-9) 2008.9 B5 8p
歴史の物差し=暦の話 セブテン
バー・ソング 上田 雄
8月例会報告(第264回)「菅原道真
公と道明寺」

見学会こぼれ話 源氏物語千年紀
よせて「平安時代もベストセ
ラー」 稲垣 隆造
◇290 (25-10) 2008.10 B5 8p
歴史の物差し＝暦の話
大の月と小の月 上田 雄
9月例会報告(第265回)「財政改革
奇跡の達人 山田方谷」／古文書
講座 第112回「大工他職人働
き方につき申渡し」
9月見学会報告 天満橋より川口
までの碑と建物を訪ねて 吉川 三郎
見学会こぼれ話 源氏物語千年紀
よせて「平安時代もベストセ
ラー」(追記) 稲垣 隆造
緒方拳さんを偲んで

◆大塩研究 大塩事件研究会
〒530-0053大阪府北区末広町1-7 成正寺
内 TEL06-6361-6212
◇59 2008.9 A5 126p
この言葉(24)
もはや堪忍成りがたし 岸本 隆巳
『大塩平八郎』(森鷗外)に見る明
治大逆事件の影 荒木 傳
幕末期和流砲術家の西洋流砲術観
—坂本鉉之助著『責己論』の紹
介 松永 友和
宇津木静区の書簡研究(下) 倉島 幸雄
大塩中斎の真実を知る人との関係
調査(3) 小西 利子
「司法大丞・島本伸道伝」余話 島本 昭
大塩と私(10) 荒木傳氏 酒井 一
会員の著書 森田康夫著『大竿平
八郎の陽明学』

◆かいづか文化財だより テンブス
貝塚市教育委員会

〒597-8585大阪府貝塚市島中1-17-1
TEL072-433-7126
◇35 2008.10 A4 8p
貝塚市内に残る雨乞い農耕儀礼
—貝塚市内民俗調査から
貝塚市の新しい登録文化財
感田神社建造物群12棟
近代化遺産全国一斉公開
市内の古文書調査から 要家文書
近現代史料／次回(第29回)古文
書講座開催のお知らせ
貝塚御坊願泉寺の平成大修理

◆家系研究 家系研究協議会
〒567-0842大阪府茨木市五十鈴町1-26
島野穰方 TEL072-634-5909 年5000円
www.geocities.jp/kakenkyou/
◇46 2008.10 B5 115p(抄)
系図資料『姓氏原始録』(9) 武田 光弘
関東管領上杉氏の出自について 宝賀 寿男
珍姓のルーツ(11) 中田みのる
続江戸期以前より見られる珍姓奇
姓(1) 安原 繁俊
“大浦氏の出自”と“二つの南部の
流れ”(1) 吉井 功兒
一千年を紡いだ薩摩国の刀鍛冶史
鍛って候(2) 浪平 博司
平安座主別当興亡の系譜 川村 一彦
コラム
奇名変名大集合・変名編 巻五
梅田氏／巻六 栄森氏／巻七
尾田氏 眞野 幹也
閑話休題
地方出版の店／沖縄の名字 馬原 浩一

◆家系研究協議会会報
〒567-0842大阪府茨木市五十鈴町1-26
島野穰方 TEL072-634-5909 年5000円

www.geocities.jp/kakenkyou/
◇26 2008.10 B5 8p
家研協に入会して早や18年 小池栄之輔
家系研究協議会 平成20年度夏の
例会報告
珍名さんいらっしゃい(23) 眞野 幹也
牛田義文氏 新刊『史伝 蜂須賀
小六正勝』を出版
家研協たより／図書出版案内

◆河童通心 和田寛
〒591-8021堺市北区新金岡町5-4-327
TEL072-251-2586 年2400円
◇298 2008.8 A5 12p
河童の文化史—昭和後期(4) 和田 寛
◇299 2008.9 A5 16p
河童の文化史—昭和後期(5) 和田 寛
◇300 2008.10 A5 16p
河童の文化史—昭和後期(6) 和田 寛
「河童文庫」増加図書目録(二冊
目の本を含む)
◇号外 2008.10 A5 4p
日光で「斎藤博之展」を見て 和田 寛

◆河内どんこう やお文化協会
〒581-0003大阪府八尾市本町5-1-1
ローレル八尾本町302 TEL072-924-3363
◇86 2008.10 B5 110p 1200円
百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登
録に向けて 丸山 昇一
新田ゼラチンと八尾との関わり 中谷 伸一
特集 環山楼ニュース
環山楼日記—管理ボランティア
事始 4月～6月担当グループ
扇屋甚三郎
環山楼創設を導いた人 坂上ひろこ
八尾の景観を考える 大森 達男
八尾の橋(5) 信念橋・新橋

澤之川に架かる橋 ちゃお
元明天皇の高安城行幸 平群町・
三ツ池遺跡の調査成果より 村杜 仁史
果てしない夢—サントリー地域文
化賞を受賞して 山本 正
鼓の音に白い炎が揺れる
—灯火能「弱法師」を観て 中西 隆子
柳井愛子画 文楽「曾根崎心中」今中 宏永
私の歴史散歩(1)「長原の戦前歳
時記」十二か月 吉川 昌英
梅子さんの戦争体験記(2)—勝つ
までは「武運長久」生駒登山 高野 剛
戦争遺跡を訪ねて(8)—大阪陸軍
航空廠(大正飛行場) 大西 進
新・古美術 柴壺青花堂日乗(3) 尾山 宗海
青木薫の続おいしい八尾(3)
割烹 を、た
悠久のナイル遺跡探訪(2)—アコ
リス遺跡発掘調査に参加して 千喜良 淳
河内・十三街道を見直す 伊能忠
敬の地図とE・サトウのガイド
ブック 松江 信一
昔の話から八尾を知る(11) 堀井 建市
伊勢物語23段第3節について(1)
伊勢物語「高安の女」はどう読
まれてきたか 棚橋 利光
山野としえさんを偲んで 幾島 一恵

◆近畿文化 近畿文化会
〒543-0021大阪市天王寺区東高津町11-9
日本生命上本町ビル5階
TEL06-4304-7433 年2200円
◇705 2008.8 A4 10p 300円
西宮の社寺—甲山とその周辺 藤井 直正
蚕糸業と震災復興の建築遺産
—丹波・丹後の洋風建築 川島 智生
◇706 2008.9 A4 8p 300円
大和の名橋を巡る 石田 成年

一乗谷と福井の史跡 田中 嗣人
◇707 2008.10 A4 10p 300円
萬福寺から宇治陵へ 来村多加史
大和の墓制をたずねて 狭川 真一

◆左海民俗 堺民俗会

〒593-8302堺市西区北条町2-10-18
生駒道弘方 TEL072-277-6331 年3000円
◇128 2008.9 B5 14p
《特集 祭り》
祭り行事を考える 南 清彦
播州高砂の秋祭り 堀田 俣子
堺鯨まつり伝承唄 川村 淳二
乳守の俳人「喜齋」 岸 繁司
小商売のいろいろ(2) 川村 淳二
鴨三題 生駒 道弘
鉄砲の里 国友村について 植田 敏義
第62回総会報告
民俗談話講演要旨
コレクターは一代限り 大澤 徳平
例会報告と一口メモ
3月例会報告
「当尾の里」歴史散策 植田 敏義
4月例会報告 万葉歌碑を巡る
IV かぎろひの丘 下谷 佐吉
5月例会報告 大和川IV 田原
本町と唐古・鍵遺跡 生駒 道弘
6月例会報告
伝説の父鬼街道を歩くⅢ 山崎 琢磨

◆ヒストリア 大阪歴史学会

〒564-8680大阪府吹田市山手町3-3-35
関西大学文学部 西本昌弘気付
www.soc.nii.ac.jp/history/
◇211 2008.9 A5 214p 1000円
《特集 「大阪府の博物館を支援する会」主催
シンポジウム》
特集にあたって 博物館と文化遺

産—地域文化力をはぐくむため
に
れきしトーク
歴史とロマンと博物館 荻谷 俊介
みにトーク
新しい博物館像をめざして—兵
庫県立考古学博物館の挑戦 多賀 茂治
歴史的環境としての遺跡 高田 健一
博物館と学校教育のつながり 向井 幸一
討 論
コーディネーター・コメント
大阪府の博物館の建設推移
—遺跡分類から見る 一瀬 和夫
大きな役割を担ってほしい大阪
府の博物館 福永 伸哉
報告 大阪府の博物館の存続をめ
ざして(続) 大阪歴史学会委員会
律令制下の神賀詞奏上儀礼につい
ての基礎的考察 大川原竜一
わたしたちの文化財 堺環濠都市
遺跡 SKT960地点の調査 水野恵利子
書 評
中世後期研究会編『室町・戦国
期研究をよみなおす』 稲垣 翔
安藤精一著『近世宮座の史的展
開』 廣田 浩治
渡邊忠司著『近世社会と百姓成
立—構造論的研究—』 栗原 亮
高木博志著『近代天皇制と古都』
戸塚 順子
報告 宮内庁書陵部との懇談会
2008 企画委員会
2008年度大会・総会の記録/委員
会報告
◆歴史懇談 大阪歴史懇談会
〒596-8691岸和田郵便局私書箱18号
FAX0724-38-4487 年5000円

www.homepage2.nifty.com/rekikon/
◇22 2008.8 B5 81p 1500円
靡摩と大阪の縁 横山 高治
玉山金山(2) 松坂 定徳
石見吉川家十代目 吉川式部少輔
経家(4) 田村 紘一
昭和天皇を想ふ 西村 彦次
四天王寺の伝説 吉川 三郎
留学生井真成の死をめぐる 大
伴古麻呂は唐へ二度行ったか?
上田 雄
歴史随想 ニールスの民 六千年の
流れを惟う(5) 吉井 功兒
「憲法十七条」の作者問題を論ず
(上) 小林 司
「古い字引き」から 磯崎 素子
数多くの文化財が失われた廃仏毀
釈(排仏毀釈) 山崎 保雄
戦後日本の群像(2) 戦後の日本
を支えた人々(昭和24年~27年
まで) 川村 一彦
おとうちゃんからのお土産 清原 尚子
間違いだらけの歴史常識
見学会こぼれ話
平安時代の食と湯漬け 稲垣 隆造
竹内街道と王陵の谷
私の故郷・大阪太子町 木村 公平
小布施町 吉川 三郎
コラム
独り言 かつて真似した国が/
猫娘 井川 光正
役行者さんとは 磯崎 素子
◆神戸大学史学年報 神戸大学史学研究会
〒657-0013神戸市灘区六甲台町1-1
www.kobe-u.ac.jp/~shigaku/
◇23 2008.6 A5 93+42p(抄)
戦時期の地方事務所に関する一考

察 深見 貴成
日本ソーダ企業の企業戦略と「満
州国」進出 兒玉 州平
退職記念 私の歴史研究 高橋 信明
◆史料ネット NEWS LETTER
歴史資料ネットワーク
〒657-8501神戸市灘区六甲台町1-1
神戸大学文学部地域連携センター気付
TEL078-803-5565 年1000円
www.lit.kobe-u.ac.jp/~macchan/
◇55 2008.10 A4 8p
巻頭言 「学びの場」としての史
料ネット 中野 賢治
特集 四川大地震と文化財保全
四川大地震に関する文化財の被害
及び現地のとりにくみについて 脇山 佳奈
四川大地震からみた文化財保全や
史料について 高橋 淳夫
火垂るの墓 長 志珠絵
「漉きばめ」による史料修復研修
を受講して 河野 未央
田尻早苗家文書 仮整理作業につ
いて
参加記 川内淳史/森脇崇文
◆地域史研究 尼崎市立地域研究史料館紀要
〒660-0881兵庫県尼崎市昭和通2-7-16
総合文化センター7階 TEL06-6482-5246
www.archives.city.amagasaki.hyogo.jp/
◇106 (38-1) 2008.9 A5 107p 850円
グラビア 大久保勝芳氏寄贈 国
道43号線道路公害反対運動関係
写真より
尼崎の時宗—近世の動向を中心に 古賀 克彦
17世紀西摂津農村における人口移
動 佐藤 敦子

校長職の成立と学校経営史(3)
—尼崎市戦前教育史余話 末方 鐵郎
誌上レファレンス 地域研究史料館
研究会報告 西摂研究会 中村 光夫
平成19年度地域研究史料館事業報
告 地域研究史料館
尼崎関係新着史料・文献・歴史論
文紹介

◆西宮文化協会会報

〒662-0974兵庫県西宮市社家町1-17
西宮神社内 TEL0798-33-0321
◇485 2008.8 B5 8p
8月行事 第23回夏季展覧会
武庫川図巻展
◇486 2008.9 B5 8p
9月行事案内 西宮神社観月祭
スニオン岬の月 吉井 貞俊
「勿体ない」という偉大なるひと言
廣瀬 久也
ちょっと昔の話(9)
戦後の復興と変貌 楠井 都志
◇487 2008.10 B5 8p
10月行事案内
比叡山巡り 横川と西塔
エザキ通信(2)
学校で教えてくれない経済学 江崎健一郎
伊勢参宮本街道を歩く(28) 吉井 貞俊

◆歴史と神戸 神戸史学会

〒657-0845神戸市灘区岩屋中町3-1-4 田中
印刷出版内 TEL078-871-0555 年3000円
◇269 (47-4) 2008.8 A5 56p 600円
《特集 知られざる文人の足跡》
細井和喜蔵の阪神時代
—『女工哀史』の作者 谷田 寿郎
「旧九鬼家住宅」を建てた九鬼隆
範 藤田 裕彦

資料紹介 有馬温泉地にみられる
角柱石の碑文—江芸閣と頼山陽
亥野 彊
神戸 文学のおもかげ(21)おわり
100年の時の流れに映る—昭和
10年~同20年 宮崎修二郎
兵庫の戦後モダニズム建築(3)
芦屋市民センター 笠原 一人
聞き書き ありし日のまちと暮ら
し(28) 二つの石伝説(2)—天
狗石 井上眞理子
宮城・岩手内陸地震の被災文化財
を調査 現地の史料ネットが資
金カンパ要請

◇270 (47-5) 2008.10 A5 48p 600円
《特集
近代神戸・阪神間の埋もれた人と建物》
小泉八雲の神戸時代 玉木 雄三
猪名川町立静思館(旧富田家住宅)
と富田家の人々 藤岡 真澄
神戸御用邸調査 村上 忠男
兵庫県下の曳山・屋台・ダンジリ
—三田市を中心に 西尾 嘉美
地名研究(93) 宝塚の地名探索
月地 月の名所と埋立地 渋谷 武弘

◆あかい奈良 グループ丹

〒630-8144奈良市東九条町6-4 TEL0742-62-
3408 年2500円 www.akai-nara.net
◇41 2008.9 A4 46p 500円
小さな奈良の物語(1)
おいしそうな地名の由来
特集 雲海に行く
考古学を愉しむ 食からのぞく奈
良の都(1) 聖武天皇と丁字の
話 菅谷 文則
大和モノまんだら(21) 奈良茶碗
肥前生まれの飯茶碗 鹿谷 勲

心の風景 お祭り—談山神社
井上博道/西村博美
あかい奈良インタビュー 興福寺
国宝館前館長 小西正文氏
あかい奈良が行く古社寺巡礼
葛木御歳神社
小特集 大僧正隆光 元禄の大仏
殿再建を支えた名僧
今日見心親 正倉院宝物の復元模
造(1)—もう一つの「本物」を
創る
大和彩食館 大和の野菜に魅せら
れて(5) 秋・紫とうがらし 三浦 雅之

◆吉野路 樋口昌徳

〒638-0001奈良県吉野郡下市町阿知賀3290
TEL0747-52-9098
◇118 2008.10 A5 20p
吉野路の点景(47) 高見トンネル
の伊勢側出口より望む奥伊勢の
景観(三重県松坂市飯高町)
ごあいさつ 樋口 昌徳
吉野路に見る南朝の遺跡(66) 天
川村に南朝の跡をさぐる(41)
天川村歴史散歩(オ) 南朝皇居
跡と南北朝合一の碑—天川村沢
原と天川大辨財天社
道標(95) 吉野への道(5) 芋峠
道の道標 明日香の地から吉野
への道
図書紹介『川上村民俗調査報告
書』上巻 森と水の源流館・発
行/『南朝・最後の証言』著者・
山地悠一郎
句碑を歩く(58) 東吉野村伊豆
尾・光蔵寺境内 三河在住、杉
浦小冬句碑建立
吉野路あちこち 川上村大滝・大

瀧ダム 5月18日「望郷の碑」
除幕
吉野路の植物(25) 巨木・古木た
ち(11) 東吉野村木津・宝蔵寺
境内「シダレザクラ」の巨木
天誅組の変 郷土出身の義士の活
躍(10) 十津川郷土の首領・野
崎主計

◆吉野春秋 樋口昌徳

〒638-0001奈良県吉野郡下市町阿知賀3290
TEL0747-52-9098
◇267 2008.8 B5 4p
黒滝村 百貝ヶ岳(標高850メー
トル)に7月6日「野草園」オー
プン 薬草・山菜など五百種を植
栽/他
◇268 2008.9 B5 4p
大峯山脈 大峰山のシラビソ 自
然遺産に迫る絶滅の危機 シラ
ビソ—弥山を自生の南限とする
針葉樹/他
◇269 2008.10 B5 4p
川上村 9月7日 川上村高原「伊
勢湾台風五十回忌法要」川上
村高原—十五戸全壊/他
◇270 2008.10 B5 4p *終刊
ご挨拶 樋口 昌徳
寄贈を受けた図書・資料の紹介(2
月~10月)/他

◆LUCIFER 水平社博物館

〒639-2244奈良県御所市柏原235-2
TEL0745-62-5588
www1.mahoroba.ne.jp/~suihei/
◇11 2008.10 A5 48p
第8回企画展 10年を振り返る—
「水平社博物館 特別展・企画展

のあゆみ」を開催 守安 敏司
第11回企画展 「被差別部落に
って『解放令』とは何だったの
か」を開催して 仲林 弘次
講座報告「異能者論と部落問題認
識の再構築」 上野 茂
訪問感想・紀行文 2007年度特選
原 均
(人権のふるさとメッセージ大賞コンテスト)
優秀賞「差別を通して」 奥 園充
優秀賞「命の尊さ—十五才の夏に
思う」 松實 愛紗

◆Regional

奈良県立同和問題関係史料センター
〒630-8133奈良県奈良市大安寺1-23-1
TEL0742-64-1488
◇10 2008.9 A5 46p
近世春日社における歴史のナラテ
ィブ—春日若宮祭祀創始説の再
検討 幡鎌 一弘
西松尾寺神名帳の成立過程につい
て(上)—史料紹介 白石畑村医
王寺文書(3) 嵩本 和臣
部落寺院のネットワークはいかな
る広がりを持ちえたか 奥本 武裕
『リージョナル』第1号～第10号
総目次

◆国際熊野学会会報

〒647-8555和歌山県新宮市教育委員会 熊
野文化振興室 山本殖生 TEL0735-23-3370
◇10 2008.10 B5 4p
今回の熊野例会に寄せて 山本 殖生

中国・四国

◆北東アジア文化研究

鳥取短期大学北東アジア文化総合研究所

〒682-8555鳥取県倉吉市福庭854
TEL0858-26-1811
◇28 2008.10 A5 105p(抄)
外務省『竹島』批判 内藤 正中
明治政府の竹島＝独島認識 朴 炳涉
鳥取県民話サークル連合会の歩み
酒井 董美

◆米子市史だより 米子市史編さん事務局

〒683-0822鳥取県米子市中町20
TEL0859-22-7208
◇27 2008.9 A4 8p
米子に残る芭蕉百年忌の句碑 畠中 弘
米子の豪商宮本家 杉本 良巳
素鳳コレクションの魅力 梅林 智美
弔 前編集長 松尾陽吉先生 弔辞
杉本 良巳

『新修米子市史 第十四巻 資料
編 映像・絵図補遺』来年二月
観光に向け、只今奮闘中

◆郷土石見 石見郷土研究懇話会

〒697-0034鳥根県浜田市相生町2139-15
児島俊平方 TEL0855-22-2567

◇78 2008.8 A5 129p 1200円
「石見銀山」研究者の足跡を偲ぶ
(3)—『郷土石見』の先人たち 竹内 幸夫
能海寛の非命と栄光 平賀英一郎
「鏡山事件」の不思議(上) 岩町 功
石見国鑄物師頭嶺山根氏の足跡 石津 確
伊達金三郎について 森岡 勲
鷗外旧宅余話 山岡 浩二
石見神楽の中国山脈越え(4)
—波佐越え 竹内 幸夫
石見の豆巨木 宮本 巖
石見の俳人・大場活刀を語る 和田 孝
青春残照
—町から消えた2つの財産 下垣 秀典

石見の民話(3)
—フィールド・ノートから 田中 瑩一
力石—わが町の碑 大畑 義松
とつても不思議な噺 川本 晃
八戸川のホタル 牛尾 光国
百姓ばあさんの独りごと 大屋 幸子
江の川風土記(11)
—太平洋戦争時代(3) 森脇 勝弘

◆宇喜多家史談会会報

〒700-0826岡山市磨屋町6-28 光珍寺内
TEL086-222-2028 年2000円
◇28 2008.10 A4 10p
「西大寺縁起」にみる宇喜多直家
の堂宇再建—宇喜多氏関連説話
考(11) 森 俊弘
秀家、それから備前中納言 大西 泰正
宇喜多直家(1529～81)とその時代
背景 谷淵 陽一
明智光秀密書 市川 俊介
宇喜多秀家の岡山城築城の検証メ
モ 出宮 徳尚

◆岡山地方史研究 岡山地方史研究会

〒704-8113岡山県岡山市西大寺2-6-36
村上岳方 TEL086-942-6156 年1500円
homepage3.nifty.com/okayama-chiho/chiho/c-main.htm
◇115 2008.9 B5 38p
岡山藩における家臣の馬所持と馬
扶持 荒島 智子
戊辰戦争期備中国鎮撫についての
一考察—芸州・備前両大名の対
立と地域の安定 笹田 健一
史料紹介
井原の興行—明治・大正時代 井上 奈緒
書評 沢山美果子著『江戸の捨て
子たち—その肖像—』 渡部 祐子

◆岡山民俗 岡山民俗学会

〒700-0062岡山市大安寺中町11-17
次田圭介方 年4000円
◇227 2008.9 B5 44p
伝説化される昔話—岡山の桃太郎
伝説と難波金之助 加原奈穂子
瀬戸内入浜塩田の採かん用具
—ニナイオケ 歳森 茂
旧奥津町の調査ノートから
—淵・子どもの遊び 立石 憲利
書評 吉原睦『磯崎眠亀と錦菟
菟』(岡山文庫253) 木下 浩

◆きび野 岡山県郷土文化財団

〒700-0813岡山市石関町2-1
TEL086-233-2505
◇111 2008.9 A5 18p
随 想
なにごとでも背景を大事にした
い 政田 孝
吉備津神社奉祝まつりについて
犬飼 博始
種と子供と岡山と 山根 知子
岡山の自然 大空山 佐古 庸二
岡山の文化財
児島湾開墾第一区の樋門群 横山 定
岡山の人物 水谷勝隆 加古 一朗
岡山の文学碑 芭蕉白菊塚 森 俊弘
わが町・わが村の自慢 犬島ア—
プロジェクト「精錬所」(岡
山市)
岡山の匠 児島研輔(檜皮・こけ
ら屋根葺き)
地域文化創造に向けて 備中玉島
港築港三百五十年(倉敷市玉島)
美術館・博物館めぐり 棟方志功・
柳井道弘記念館(M&Y記念館)
(津山市)

◆芸備地方史研究 芸備地方史研究会
〒739-8522広島県東広島市鏡山1-2-3 広島
大学大学院文学研究科日本史学研究室内
TEL082-424-6643 年3000円
◇263 2008.10 A5 52p
歴史を語る 備後国の国人領主洪
川氏とその周辺について 植田 崇文
資料紹介 宗像大社一切経奥書に
みえる瀬戸内海の地名 岡野 浩二
書評 光成準治著『中・近世移行
期大名領国の研究』 黒田 基樹
伊予史談会交流報告 伊予史談会
創立95周年記念式典参加記 石田 雅春
動向 広島県の地方史研究／鈴峯
オープンカレッジの記録
芸備掲示板
特別展「広島は私の街—新藤兼
人監督と広島—」 広島市公文書館
企画展「広島市民球場の記憶」
広島市郷土資料館
平成20年度秋の特別企画展「優
美なる百花繚乱の世界—表現
された植物を見る—」
広島県立歴史民俗資料館
平成20年度広公民館秋の文化祭
での講演会 広郷土史研究会
特別展「広島が生んだ軍艦総長
—平賀譲一展(仮称)」
呉市海事歴史科学館
史跡をあるく 平和塔
◆備陽史探訪 備陽史探訪の会
〒720-0824広島県福山市多治米町5-19-8
TEL084-953-6215
◇143 2008.8 A4 16p
怪談「やや(阿良)が火」 田口 義之
神戸八社めぐり 足立捷一郎
「歌の父母」の発見—来年のこと

をいうと鬼が笑う? 平田 恵彦
池に映ゆ鳳凰堂の花盛り 中島 政子
高野山参拝 高橋 光雄
街道歩き(1) 長野県賛川から岐
阜県馬籠まで木曾路11宿を歩く
(昭和48年) 岡田宏一郎
「甲奴小童(仮)発掘現場見学会」
始末 藤波平次郎
二題 丹波の里に歴史を探る／福
山の顔・福山城 藤井 好玄
中国地方の鋳物師と豊後府内 後藤 匡史
やっぱり本屋が好き 田中 美恵
◇144 2008.10 A4 14p
郷分青ヶ城と皆内氏 田口 義之
廿日市例会に参加して 長崎 雅子
街道歩き(木曾路その二)
上松宿から馬籠まで 岡田宏一郎
三尾巡り 高橋 光雄
宗碩の『月村抜句』 小林 定市
丹波篠山デカンショ探訪記 出内 博都
最後の將軍はつらいよ 野母 寿子
名は人を表わす 後藤 匡史
三天皇の関わりと大伴家持の苦悩
熊谷 操子
10月バス例会の探訪地から 種本 実
◆広郷土史研究会会報
〒737-0112広島県呉市広古新開2-1-4
呉市広公民館内 TEL0823-71-0706
◇87 2008.9 A4 16p
昭和14年夏の旱魃渇水時
水越の川底を掘る
広村甘藍(キャベツ)栽培の普及と
広園芸出荷組合 祖父・玉木伊
之吉の思い出 浜本美智子
郷土広の発展を夢見て 杉岡 護
中新開・吉松区画整理事業の概要
(図面画像処理) 賀谷 剛三

例会報告 吉田 顕治
◆広島県立文書館だより
〒730-0052広島市中区千田町3-7-47
TEL082-245-8444
www.pref.hiroshima.jp/soumu/bunsyo/monjokan/
◇32 2008.7 A4 8p
江戸前期の大福帳 西向 宏介
収蔵文書展「開発の時代—広島県
行政文書1955～1975—」を見
学して 新谷 尚紀
文書館のしごと(12)
文書の補修(1) 下向井祐子
収蔵文書の紹介 安芸郡熊野村・
海城家文書—西郷隆盛の最期を
伝える手紙 西村 晃
平成19年度に収集した古文書
第3回中国・四国地区アーカイブ
ズウィーク(6月1日～7日)
資料集「村上家康 元治元年・慶
応元年」の刊行 西村 晃
広文協から
◆広島民俗 広島民俗学会
〒739-1521広島市安佐北区白木町三田2810
栗原秀雄方 TEL082-829-0341
◇70 2008.8 A5 34p 500円
県北の漆掻き 久岡 武美
「塩原の大山供養田植」の伝承活
動—東城・内堀小学校の成果 有田 洋人
第71回研究会報告 瀬戸内遊覧記
—三之瀬・御手洗 小沢 康甫
◆みよし地方史 三次地方史研究会
〒729-4304広島県三次市三良坂町三良坂
新祖隆太郎方 TEL0824-44-2694
◇76 2008.8 B5 14p
世羅郡宇賀村の貢租関係文書につ

いて(1) 藤原 一三
歴史随想
阿久利姫 三次での七年間 米丸 嘉一
廃永樹寺跡(吉舎町丸田)の五輪塔
中畑 和彦
甲奴郡小童の珍しい道標 藤原 一三
『みよし地方史』第64号～75号
総目次
三次地方の珍しい地名(10) 大平
(おおびら)／焼庭(やけには)
◆わが町三原 みはら歴史と観光の会
〒723-0062広島県三原市本町1-9-27
TEL0848-62-2935
◇209 2008.8 B5 12p
今月の各地
白松克太先生のこと 古川嵯知子
総会記念講演会 橋本敬一先生
「江戸時代の三原」(要旨1) 鈴木 健次
秀吉と三原(1)
—九州往復で通った道の推定 大谷 和弘
いも地蔵と下見吉十郎(7) 坂井 吉徳
◇210 2008.9 B5 12p
今月の各地 故郷のお盆 坂井 吉徳
総会記念講演会 橋本敬一先生
「江戸時代の三原」(要旨2) 鈴木 健次
秀吉と三原(2)
—九州往復で通った道の推定 大谷 和弘
白い実の山桃を訪ねて 福岡 幸司
◇211 2008.10 B5 12p
今月の各地
糸崎港・みゆきの松 復権へ 下西 勝彦
総会記念講演会 橋本敬一先生
「江戸時代の三原」(要旨3) 鈴木 健次
秀吉と三原(3)—九州往復で通っ
た道の推定 大谷 和弘
いも地蔵と下見吉十郎(8) 坂井 吉徳
レキカン秋の研修旅行(出雲方面)

興源寺とその周辺を巡る旅 柏原 栄三

◆山口県神道史研究 山口県神道史研究会
〒753-0091山口市天花 山口県神社庁内
TEL083-922-0506
◇20 2008.7 A5 75p
御饌イセヒカリ 附—農学徒のみ
る「国譲り」論 岩瀬 平
本居宣長と神の定義と御霊の神学
—霊魂多相説(霊力説)について
—「たま」と「たましい」およ
び「全体霊」と「徳用霊」 友田 光
神道史研究会研修旅行記 高橋ゆかり

◆徳島県立博物館ニュース
〒770-8070徳島市八万町向寺山 徳島県文
化の森総合公園 TEL088-668-3636
www.museum.tokushima-ec.ed.jp
◇71 2008.6 A4 8p
Culture Club 城の記憶—須木一
胤と「旧徳島城図」 大橋 俊雄
情報ボックス
山本侯充編『日本銘菓事典』 庄武 憲子
平成20年度第2回企画展「動物大
集合—動物標本の世界—」
館蔵品紹介『法隆寺壁画保存方
法調査報告』 魚島 純一
Q&A 光るミミズがいるって本
当? 山田 量崇
◇72 2008.9 A4 8p
Culture Club 絶滅の恐れがある
小魚—カワバタモロコ 佐藤 陽一
情報ボックス
浜辺の植物 所変われば 茨木 靖
平成20年度第3回企画展「香りの
世界—誘・癒・遊—」
那賀町(旧木沢村)坂州の三疊紀後
期の地層 寒谷層 辻野 泰之

Q&A トコロテンはどのような
にしてつくるのですか? 磯本 宏紀

◆新居浜史談 新居浜郷土史談会
〒792-0023愛媛県新居浜市繁本町8-65
新居浜市生涯学習センター内
TEL0897-33-2991
◇372 2008.7 A5 52p 500円
難波江先生の色紙 芥川 三平
上郷遺跡 発掘調査 真木 孝
徴兵制と満期記念品 千葉 富雅
市之川鉱山 続(4) 藤田 二郎
岡崎公園の記念碑 小野 清恒
「御用留帳」摘抄録(4)—明治3・4
年 大生院村 高橋家文書 喜代吉榮徳
◇373 2008.10 A5 54p 500円
神宮寺と藤田鉄椎 芥川 三平
太鼓台余話「玉取姫と龍王宮」 加地 和夫
別子銅山の中国人強制連行
亡き友の冥福を祈る 曾我 幸弘
おはちまさん 千葉 富雄
市之川鉱山 続(5) 藤田 二郎
語り伝えて 歴史が証明した健康
食/日本史零り話 小野 清恒
「御用留帳」摘抄録(5)—明治3・4
年 大生院村 高橋家文書 喜代吉榮徳

◆秦史談 秦史談会
〒780-0023高知市東秦泉寺283
松本紀郎方 TEL088-875-6671
◇146 2008.7 B5 58p
懐かしのリベラル劇場 藤本 知子
カツオ文化など 広谷喜十郎
昭和の記憶(1) 中畑 中道
大河ドラマ「篤姫」と土佐(4) 岩崎 義郎
三谷の「山の神」 松本 紀郎
高知大空襲の日(新聞)
山の神・境内林調査報告 岡林 長富

儒者達の休日 鍋島 静一
宮地静軒、土佐人を罵倒 松本 紀郎
秦の昔話「蜂に呪文をかけた話」
「松葉谷の狸の話」 永野美智子
民権ばあさん物語「自由は土佐の
山間より」「民権かぞへ歌」 久米生太子
昭和の記憶(2) 中畑 中道
地の名もなき偉人たち(9)
新国劇の創始者—沢田正二郎 広谷喜十郎
講演会から 土佐史研究家 広谷
喜十郎さん(『愛媛新聞』より)
／ひろめ市場繁昌に感謝(『小市
新聞』より)／安芸市観光大学
が開講(『高知新聞』より)／土
佐の高僧・義天に光を(『高知新
聞』より)
岡村庄造氏拓本集から(9)
京都の龍安寺・妙心寺を訪ねて 広谷喜十郎
◇147 2008.9 B5 47p
イスの木のある風景 広谷喜十郎
大河ドラマ「篤姫」と土佐(5) 岩崎 義郎
秦泉寺に住んだ歴史上の人びと
(2) 松本 紀郎
民権ばあさん物語「日本国憲法の
ふるさと」 久米生太子
土佐に來た伊曾乃神社の謎 広谷喜十郎
昭和の記憶(3) 中畑 中道
秦の昔話「宇津野の大蛇」 永野美智子
祭に息づく夫の意志(『高知新聞』
より)
宗安寺の不動堂成立について 広谷喜十郎
桂井素安の巻 余聞 松本 紀郎
拓本展「祈りの石摺り」 岡村 庄造
墓石に魅せられて 土佐 文雄

九州・沖縄

◆季刊 邪馬台国 梓書院
〒812-0044福岡市博多区千代3-2-1

麻生ハウス3階 TEL092-643-7075
◇99 2008.7 A5 204p 1300円
巻頭言『古事記』と『日本書紀』
との景行天皇記事の違いは、な
ぜ生じたのか 安本 美典
〈総力特集 景行天皇 第1弾〉
景行天皇特集にあたって 編集部
九州における景行天皇伝承(上) 河村 哲夫
「景行紀」のクマソ征討説話につ
いて 日高 正晴
菊池川流域における景行天皇伝承
安達 武敏
小林市における景行天皇伝承 増谷 理絵
発掘された神功皇后史料『雄廉起
風』(3)最終回 編集部
二つの仏教伝承年次(538年と552
年) 笠井倭人氏の仮説紹介 花田 達郎
東京都区内の神社と祭神 岡 博
邪馬台国発掘速報!「末盧国」よ
り 佐賀県唐津市中原遺跡の古
墳時代初頭前後の墳墓
小松讓/川副麻理子
発掘最前線レポート 日本最古の
湿地性貝塚—東名遺跡 中野充/西田巖
邪馬台国大研究(15) 井上 修一
九州古代紀行(3)
高千穂の鬼伝説を往く 加藤 哲也
コラム 神佛と鯰(2) 麻生神社 半田 隆夫
神功皇后ゆかりの神社を訪ねて
(2) 和布刈神社 編集部
コラム 太宰府周辺・地名で遊ぶ
(5) 観世音寺地区の小字(2) 観世 広
日韓 食の交流史(中) 焼き肉ロ
ード—在日と朝鮮通信使の影響
力 嶋村 初吉
書評
『DNAでたどる日本人10万年の
旅』 崎谷満著 吉田 知行

『理系の視点からみた「考古学」の論争点』新井宏著 吉田 知行
『「邪馬台国畿内説」徹底批判—その学説は「科学的」なのか』安本美典著 河村 哲夫
私の邪馬台国論—すべては北部九州から始まった 高橋 永寿

◆九州史学 九州史学研究会

〒812-8581福岡市東区箱崎6-19-1
九州大学文学部日本史学研究室内
TEL092-642-2375

www.lit.kyushu-u.ac.jp/his_jap/kyushusigaku/

◇150 2008.9 B5 102p

《九州史学創刊50周年記念特集
半世紀を迎えた『九州史学』

特集にあたって

50周年を迎えるに当たって 吉田 昌彦
記念講演

戦争と啓蒙—(政治史)と(思想史)の架橋 有馬 学
蒙古襲来史料としての日蓮遺文 川添 昭二

記念シンポジウム 趣旨説明・報告要旨／討論要旨

九州史学アーカイブ

『九州史学』の50年をふり返って—川添昭二氏インタビュー

創刊50周年記念事業実行委員会
年表／『九州史学』創刊50周年記念事業の記録

◇151 2008.10 B5 76p

古写経研究の可能性

—道行知識経について 竹本 晃
古写経識語の神仏—天平宝字二年

道行知識経の識語をめぐって 遠藤 慶太
史料紹介

竹下家系図所収文書の紹介 米澤 英昭

書評 西谷正浩著『日本中世の所有構造』 小川 弘和

◆福岡地方史研究

福岡地方史研究会(発売:海鳥社)
〒811-2113福岡県糟谷郡須恵町須恵820-2
石瀧豊美方 TEL092-933-0426 年5000円

◇46 2008.8 A5 136p 1200円

巻頭言 まあ、飲みがっしゃい 石瀧 豊美
講演記録

埋没した中世都市博多と地名 大庭 康時
殉死者の墓 筑前黒田家の場合 副島 邦弘

豪商大文字屋の系譜を考える 吉田 喜代
福岡藩主黒田継高周辺の女性達の

手紙 寺崎 幹洋
「御出会達御間取絵図」を読み解

く 筑前山家宿御茶屋における
福岡藩主のおもてなし作法 有田 和樹

史料紹介

崇福寺史料 利休居士正忌日点

茶供養会侍座 松岡 博和
長討却軍記 慶応2(1866)年の

小倉戦争を題材とした軍記史料
料 守友 隆

歴史随想

福岡藩城代組中村甚八のガラス

湿版写真 中村 順子
香椎宮奉幣使の道筋と真宗寺院

鷲山 智英
古田鷹治氏追悼

古田さんとの思い出 有田 和樹
箱崎の大先輩 池田 善朗

古田鷹治氏を悼む 折居 正勝
古田鷹治君の思い出 秀村 選三

飯塚歴史散歩 竹川 克幸
第1回志賀島歴史シンポジウム報

告 折居 正勝
稀少雑誌探索(2)

『共栄』・『皇国の礎』 首藤 卓茂
本の紹介 近代日本経済発展の可

能性をめぐって 井奥成彦『19
世紀日本の商品生産と流通』 加藤 僚

平成19年度例会卓話記録／会員の
本の紹介

短信往来 穴山健／川本一守／平田
善積／山田秀／横田武子

◆ふるさとの自然と歴史

歴史と自然をまもる会

〒810-0001福岡市中央区天神1-15-30

福岡市文学館内 TEL092-781-7802

◇324 2008.9 A4 33p 500円

祭のぼせ 森 弘子

福岡市の鳥たち(23)

特別寄稿 ヤマドリ生態 川路 則友
邪馬台国時代の国ぐにと県・県主

(62) 玄界灘沿岸を主として 長 洋一
野生植物を訪ねて(97) 九重高原

のブンゴボダイジュ・ヒゴタイ
井上 晋

いしぶみ訪問(116)

シーサイドもち 那須 博
福岡の通史 青木 晃

続・野村望東尼書翰集見つかる

(31) 筆も墨も料紙もない牢獄
にて政治の刷新を侵略の危機

小河扶希子
古賀百工と山田堰 坂本 正行
福岡のむかしばなし(104)

カップの話(4) 青木 晃
福岡市赤煉瓦文化館「誕生一〇〇

年祭」 福原 正夫
美術館・博物館等文化施設だより

／探訪と催し

◆末盧国 松浦史談会

〒847-0824佐賀県唐津市神田2118-1

TEL0955-73-3549 年2000円

◇175 2008.9 B5 20p

郷土史の疑問点の検証

—岸岳城内紛の頃 塚本 三郎
八幡岳がはぐくむ野草を訪ねて 藤井 鶴久

唐津焼始原期の謎(5)—なぜ城周

辺に岸岳八窯を置いたか 朝鮮

の先進窯技術を波多独占か(1)

中里 紀元
伊勢崎の唐津城図(2) 宮崎 博司

青木氏蒐集文書について(2) 寺沢 光世
田島遺跡出土「日光鏡」 堀川 義英

古典文学を読む(中) 藤井 悟
屋形石天瑞山長興寺を尋ねて(2)

志佐 暉彦
考古学における唐津地方研究の成

果(14) もの与生活(2) 蓋形

漆器(2) 田島 龍太
トビックス

名護屋大橋に歩道完成 熊本 典宏

◆対馬の自然と文化

対馬の自然と文化を守る会

〒817-0006長崎県対馬市厳原町北里91-2

TEL0920-52-3816

◇35 2008.10 A5 22p

平成19年度自然環境調査報告

—対馬南海岸における漂流物 阿比留道雄
神々誕生の起源 大江 正康

◆アーカイブス 沖縄県公文書館だより

〒901-1105沖縄県島尻郡南風原町新川
148-3 TEL098-888-3875

archives.pref.okinawa.jp

◇35 2008.8 A4 8p

新館長メッセージ 本間 勝

この人にきました

新城鐵太郎さん(2)

アーカイブズフラッシュ／知って
いましたか？ 軍雇用員カード
は公文書館にあります
新収蔵資料紹介
沖縄関係映像フィルム
特集 沖縄県公文書館ホームペー
ジ「ねっとOPA」が新しくな
りました
あの日の沖縄—琉球政府関係写真
資料より
閲覧室Q&A

◆宮古郷土史研究会会報

〒906-0007沖縄県宮古島市平良字東仲宗根
42 県立図書館宮古分館内
TEL09807-2-2317

◇167 2008.7 B5 8p

7月定例会レジュメ 金志川兄弟
の「史実」と「伝承」—「仲立氏
正統系図家譜」から見えてくる
もの 仲宗根將二

8月定例会レジュメ 仲宗根豊見
親の八重山入について—八重山
鬼虎(ヤーマントウラ)の記録・
伝承を中心に 下地 利幸

5月定例会のあらまし 「与那覇勢
頭豊見親碑」建立の背景 下地 和宏
『宮古島市史』編さん事業 通史
編発行スケジュール・執筆要
項・委員の執筆分担等決定 下地 利幸

6月定例会のあらまし 宮古島体
育協会60周年記念誌発行を終え
て 小祿 恵良
憲法を守りどう生かしていくか—

みやこ・大学人「九条の会」シ
ンポ 仲宗根將二
つれづれなるままに—宮古上布—
追記 當真まり子

多良間・スツブナカをみる 下地 和宏
特別企画展—永き時をかけた宮古
上布、今、命を吹き込む—を終
えて 砂川 猛
「ヒト」から「モノ」に語る
今年も多くの学校で「平和学習」

仲宗根將二
王府末期・置県直後の「辞令」—
宜野湾在住・垣花恵蔵氏提供 仲宗根將二

◇168 2008.9 B5 8p

9月定例会レジュメ 「旧記」にみ
る伊良部島—郷土史を更に深め
るために 下地 和宏

10月定例会レジュメ 平成19年度
外間遺跡発掘調査概報 久貝 弥嗣

第3回宮古島市民総合文化祭 一
般の部の秋の文化祭・郷土史部
門は伊良部史跡めぐり 下地 利幸

多くの記録・伝承あるなかで「家
譜」記載のない金志川兄弟—7
月定例会のあらまし 仲宗根將二

8月定例会のまとめ 仲宗根豊見
親の八重山入について 下地 利幸
第32回「郷土史講座」を開催
県立図書館宮古分館

波及効果大きい「平良好児賞」
第12回 藤村きみ・市原千佳子
両氏が受賞

『宮古の自然と文化』一・二集
宮古への熱い思いの出版祝賀会
仲宗根將二

憲法を守り、どう生かしていくか
「シンポ」と「九条の会」三周
年平和集会

「高澤義人歌碑」建立三周年のつ
どい
「日本軍『慰安婦』の祈念碑」建立
仲宗根將二

◆宮古島市史だより

宮古島市史編さん事務局
〒906-0011沖縄県宮古島市平良字東仲宗根
添1166-287 教育委員会文化振興課
TEL0980-73-0567

◇1 2008.3 A4 8p

『宮古島市史』編さん事業始まる 仲宗根將二
宮古島市史編さん大綱／編集方針
／宮古島市史編さん構想／宮古
島市史編さん委員会

金志川兄弟の「史実」と伝承 仲宗根將二
『宮古島市史』通史編 内容と執
筆者

外間遺跡の人骨 下地 和宏
これまでに発刊された市町村史・
誌及び記念誌

寄贈図書紹介

◆蔵王東麓の郷土誌

—中橋彰吾先生追悼論文集
中橋彰吾先生追悼論文集刊行会編・刊 (〒
985-0041 宮城県塩釜市白菊町9-3 TEL022-
366-9307) 2008年9月 B5 334頁 3680円
(送料共)

白石市文化財保護委員長として文化財保護に
尽力された中橋彰吾氏(1930～2006)の追悼
論文集。中橋彰吾のあゆみ(中橋康)／原稿執
筆の道具(中橋邦)／中橋彰吾先生著作目録／
片倉信光—郷土の伝統工芸白石和紙を遺す中
橋彰吾)／大鷹沢資料集に寄せて(中橋彰吾)
／殴り込み(宮地祐一)／物心ついてからの付
き合い(皆川勇一)／中橋先生のあし跡(米澤
繁)／故中橋さんの思いで(佐々木安彦)／中
橋彰吾さんを偲んで(菊地清治)／ボンと背中
を押されて(渡辺信男)／中橋先生と奥様の思
い出(清野俊太郎)／中橋さんと爛ベツト(遠
藤智)／「片倉家の北海道開拓資料等展示会」

の思い出(平間啓子)／中橋先生の思い出(川
村要一郎)／「中橋少年団」の一人として(菊
地逸夫)／未知への開拓と邂逅(佐藤洋)／A
tradition of local history at a small castle
town in northeastern Japan 1968 to 1977:
Mr.Nakahashi's legacy and beyond(阿子島
香)／宮城県石巻市南境貝塚出土の骨格・牙・
貝製品について(後)(後藤勝彦)／阿武隈川下
流域における縄文時代後期初頭の土器編年研
究序説(相原淳一)／白石市福岡八宮大槻地区
の縄文早期遺跡踏査報告(佐藤洋・小熊充・
高橋正弘・佐藤紀子)／東北の豪族居宅(補遺)
(菅原祥夫)／宮城県丸森町大内堂平庵寺跡出
土資料について(伊藤博道)／丸森町大古町遺
跡出土の中世遺物の考察(齋藤良治)／中橋さ
んと中世城館研究(佐藤信行)／正治二年芝田
次郎追悼合戦の謎を探る(芳賀寿幸)／長面浦
の入浜式塩田(石本弘)／宮城県の猫を彫った
石碑(石黒伸一郎)／明治政府における慶長遣
欧使節の認識過程(佐々木和博)／近代におけ
る遠刈田温泉の様相(佐藤洋一)／宮城県の巨
木10種類の幹周順位表(上野雄規)

◆船形山の民俗 吉田潤之介採訪資料

東北文化資料叢書3
東北大学大学院文学研究科 東北文化研究室
(〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1) 2008
年3月 B5 285頁 無料(送料340円(切手))
宮城・山形両県にまたがる船形山に対する信
仰や民俗の解明をライフワークに、長年にわ
たるフィールドワークを行ってきた吉田潤之
介(1918～2000)の収集資料から、調査の指
針ともなった『船形山手引草』の翻刻と、実
際のフィールドワークの一端を伝える録音テ
ープ資料を取録する。吉田潤之介採訪資料
解題／『船形山手引草』／聞き取り調査時の
録音テープ記録

◆古河の歴史と文学

古河歴史博物館・古河文学館編・刊 (〒306-

0033 茨城県古河市中央町3-10-56 TEL0280-22-5211) 2008年3月 A5 64頁

『万葉集』をはじめとして数多くの文学に描かれた古河の作品ゆかりの地を、古河城下エリア、古河南部エリア、古河総合公園エリア、古河広域のエリアマップとともに紹介する。歴史と文学のまち 古河 エリアマップ／古河の歴史と文学／文学の舞台 古河／主人公・名脇役—描かれる人々／編集と出版—編集者 鷹見久太郎／文芸活動と古河／ツタエ—古河の口承文芸／現代の古河文学

◆産鉄族オオ氏 新編東国の古代
柴田弘武著 崙書房出版 (〒270-0164 千葉県流山市流山2-296-5 TEL04-7158-0035)

2008年8月 新書判 326頁 1800円
『東国の古代史—産鉄族オオ氏の軌跡』(崙書房ふるさと文庫70、1980年3月刊)の改訂版として、新たな成果もふまえて相模・陸奥にも広がるオオ氏の足跡と古代東国の姿を探る。『常陸国風土記』を読む／鉄の神話／産鉄族オオ氏／装飾古墳をたずねる／オオ氏の軌跡／古代東国とオオ氏

◆黒羽藩主大関氏と菩提寺
—大雄寺の宝物を中心として
大田原市黒羽芭蕉の館・刊 (〒324-0234 栃木県大田原市前田980-1 TEL0287-54-4151)

2008年11月 A4 80頁
黒羽芭蕉の館の平成20年度企画展の展示図録。文安5年1448の大関忠増による再建以来、大関氏の菩提寺として黒羽の歴史と密接に関わってきた大雄寺の宝物を中心に紹介する。黒羽城と大雄寺のすがた／大関氏と大雄寺／大雄寺の宝物—黒羽文化継承の拠点／資料解説／大関氏の城郭と菩提寺(新井敦史)／黒羽山久遠寺(橋本慎司)

◆群馬地名研究会20周年記念誌
群馬の地名を探る
群馬地名研究会編・刊 (〒371-0835 群馬県

前橋市前箱田町2-9-8) 2008年11月 B5 334頁

故都丸十九一氏を中心に群馬県の地名愛好者が集い創立された群馬地名研究会の20周年記念誌。年4回刊行の機関誌『群馬地名だより』に掲載された都丸氏の研究をはじめとして、会員の主な論考を収録する。序文(澤口宏)／祝辞(谷川健一)／二十周年に思う(近藤義雄)／都丸十九一先生の書かれた文章／地名だよりの主な論文／活動の報告

◆新編倉渕村誌 資料編1
原始・古代 中世 近世
倉渕村誌編さん委員会編 倉渕村誌刊行委員会 (〒370-3402 群馬県高崎市倉渕町三ノ倉303 高崎市倉渕支所 TEL027-378-3111)

2008年3月 B5 653頁
2006年1月に高崎市に編入された倉渕村の合併前からの編纂事業計画を引き継ぎ、旧版『倉渕村誌』(1975年刊)以降の村の歩みや新出資料などを編纂・刊行する村誌第2回配本。

[原始・古代] 倉渕村の自然と文化／遺跡・遺物の調査／発掘調査の成果／古代の倉渕
[中世] 文書・記録／金石文
[近世] 領主支配／村と生活／農業と貢租／産業と交通／社会の変動／小栗上野介忠順／倉渕村支配者変遷一覧

◆新編倉渕村誌 資料編2 近代現代
倉渕村誌編さん委員会編 倉渕村誌刊行委員会 (同上) 2008年3月 B5 568頁
[近代現代] 政治・社会／倉渕村政と村議会／産業・経済／村民の暮らし／教育の発展／人物

◆猫に語りかける富士講 中編 富士講の成立と盛況 富士講アーカイブ選書3
大谷正幸著 富士講アーカイブ (<http://homepage2.nifty.com/kakugyou/>) 2008年8月 B5 44頁 500円(送料80円)

前編のおさらい／近世から享保年間までの富

士信仰／富士講成立の微妙な時代／富士講が確立された頃／食行に関係しない角行系の人たち／江戸町奉行所の富士講対策／世間の富士講に対する評判／あとがき

◆島のくらし 50年の変化
—坪井洋文撮影民俗写真から

小川直之・須永敬・藤井弘章・長野隆之著 國學院大學文学部・小川直之 (〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28) 2008年7月 A4 20頁

島のくらし 50年の変化—坪井洋文撮影民俗写真から(小川直之)／加唐島(佐賀県唐津市) 50年の変化—坪井洋文・昭和27年民俗写真(須永敬)／新島・神津島50年の変化—坪井洋文・昭和32年民俗写真(藤井弘章)／佐渡小水町琴浦(新潟県佐渡市)50年の変化—坪井洋文・昭和35年民俗写真(長野隆之)

◆全国地方史誌関係図書目録2007
—国立国会図書館納本非流通図書
クオリ編・刊 (〒176-0002 東京都練馬区桜台4-21-9-105 TEL03-3948-4407) 2008年10月 B5 215頁 7000円

国立国会図書館の収集情報誌『日本全国書誌』から地方史誌と地方史に関する非流通図書を抽出し、基本的な書誌情報を県別市町村順に配列して収録した、国立国会図書館への納本に拠った他に類書のない地方史誌関係図書目録。1989年版(1990年刊)から毎年一冊刊行し、この2007年版で19冊目となる。

◆ひとの一生—千代田の人生儀礼
千代田区立四番町歴史民俗資料館編・刊 (〒102-0081 東京都千代田区四番町1 TEL03-3238-1139) 2008年10月 A4 40頁

千代田区立四番町歴史民俗資料館の平成20年度特別展図録。江戸時代から現代にかけての都市生活における人生儀礼を取り上げ、民俗学・歴史学・考古学の各視点から多様な資料を紹介する。人生(日本人の人生儀礼、「成

人」の概念)／婚礼(江戸の婚礼、13代将軍家定の婚礼、錦絵に描かれた婚礼、すごろくに見る結婚観、自宅婚から会場婚へ)／コラム 死後の婚礼—冥婚習俗(孫益珊)／葬送(考古学からみた葬送、葬送の風景)／コラム 骨から探る被葬者の人生(前田北斗)／誕生(誕生の喜び、とりあげ婆から病院出産へ、誕生にまつわる儀礼、誕生と胎衣)

◆写真展 あの時、あの時
—相模川から境川周辺の風景
東京家政学院生活文化博物館編 (〒194-0292 東京都町田市相原町2600 TEL042-782-9814) 2008年7月 A4 21頁

東京家政学院生活文化博物館の第20回特別展示の図録。「相模原市城山町エコミュージアムを育てる会」により収集された古い写真資料と、町田市立博物館における撮影資料を中心に、変貌著しい相模原地域の姿を紹介する。あの時、あの時／相模川から境川にかけて—地形と地理的環境／相模国と武蔵国のはざまの世界—古代～中世の開発を中心に

◆直江兼続101の謎
川口素生著 P H P 研究所 (〒102-8331 東京都千代田区三番町3-10 TEL03-3239-6233) 2008年11月 文庫版 292頁 590円

直江兼続の〈実像&業績〉の謎／兼続の〈出自&一族〉の謎／兼続と主君(上杉氏)の謎／景勝と決戦(御館の乱)の謎／兼続と(直江氏&お船の方)の謎／兼続の〈城郭&奮戦〉の謎／兼続の〈重要場面&逸話〉の謎／兼続と(関ヶ原&長谷堂城の戦い)の謎／兼続と(米沢藩政&大坂の陣)の謎／兼続と(信仰&文芸)の謎／兼続夫妻の〈子女&最期〉の謎

◆生誕250年記念 良寛とゆかりの人々
生誕250年記念 良寛遺宝展実行委員会 (〒949-4352 新潟県三島郡出雲崎町大門141-7 磯部友記雄方 TEL0258-78-2932) 2008年6月 B5 194頁 2000円

2008年4月1日から8月10日まで良寛記念館で開催された生誕250年記念良寛遺宝展の記念冊子。作品紹介／ゆかりの土地遺跡／良寛像を築いた人々(岡村鉄琴)／天真を敬慕するまちの人々(岡村鉄琴)／鵬斎と良寛(岡村鉄琴)／良寛顕彰史上の中林梧竹(岡村鉄琴)／會津八一の戦後(岡村鉄琴)／中田みづほ 會津八一の書画について(岡村鉄琴)／床屋長蔵の「びんだれ」(仲野隆之)／峨眉山下橋 拓本によせて(仲野隆之)／釈文等／良寛生誕250年記念 良寛遺宝展 企画書

◆第23回全国天領ゼミナール記録集

全国天領ゼミナール事務局編・刊 (〒952-8051 新潟県佐渡市両津湊198 佐渡市教育委員会世界遺産・文化振興課内 TEL0259-27-4170) 2008年8月 B5 130頁

1985年に始まって今回で23回目を迎えた全国天領ゼミナール(2007年8月4日・5日、於・佐渡市金井能楽堂)の記録集。石見銀山と佐渡金銀山—その持続へのそれぞれの営み(原田洋一郎)／佐渡金銀山の成立(田中圭一)／高千鋌山(仲田善夫)／南沢疎水坑(金子勉)／対談 滝沢銀山(加藤貴一・佐藤利夫)／天領ゼミナールのあゆみ

◆庄川の川工事が生んだ事業家

佐藤助九郎展

砺波市立砺波郷土資料館編・刊 (〒939-1382 富山県砺波市花園町1-78 TEL0763-32-2339) 2008年9月 A4 29頁

砺波郷土資料館編の第31回郷土先人展の図録。庄川・常願寺川の水害克服を目指した初代佐藤助九郎と後継者たちの業績や人となりについて紹介する。初代佐藤助九郎／二代佐藤助九郎／佐藤家の成長／三代佐藤助九郎／川とのたたかい／常願寺川大改修工事／庄川改修工事／鉄道工事／電力工事／佐藤組を支えた手代たち／資料 初代の業績／初代・二代・三代佐藤助九郎年表

◆タブノキは残った 能登の霊木物語

藤平朝雄著 能登カルチャークラブ (〒926-0021 石川県七尾市本府中町ヲ部8-2 TEL0767-53-2443) 2008年4月 A5 46頁 300円
能登のタブノキ—発刊によせて(田中敏之)／プロローグ／折口信夫と能登のタブノキ／いのちを守る木／歴史を語り能登の木／タブノキ霊異譚／能登在住四十年—あとがきに代えて(藤平朝雄)

◆欧亜の架け橋—敦賀 阿字門叢書3

涛声学舎編・刊 (〒914-0046 福井県敦賀市津内47-6-1 多仁照廣方 電話090-4685-3170) 2008年7月 A4 23頁

敦賀短期大学と市民とが一体となって敦賀を学ぶ場 涛声学舎の成果をまとめる阿字門叢書。本書はポーランド孤児と敦賀をテーマに、2006年10月28日に「敦賀港みなと観光交流促進協議会」が敦賀市きらめきみなと館で開催したシンポジウム講演他を収録する。「欧亜の架け橋—敦賀」の発刊にあたって多仁照廣)／欧亜の架け橋—敦賀(エヴァ・パワシ・ルトコフスカ)／ポーランド孤児「極東青年会」と「野口芳雄」(多仁照廣)

◆鯖江藩の成立と展開

竹内信夫著 (〒916-0071 福井県鯖江市持明寺町15-11 TEL0778-62-0202) 2008年3月 A5 636頁

間部詮房研究(間部詮房、「間部詮房公務日記」に関する一考察、間部詮房の所領について、間部詮房の能楽について、所謂「本所間部家」と「赤坂間部家」について)／鯖江藩成立過程の研究(成立期鯖江藩の村落について、鯖江藩家臣団の成立過程、鯖江城下の拡張の町方の形成)／鯖江藩史研究(間部家の人々、鯖江城下における芝居興行の様相、鯖江藩の村明細帳について、鯖江藩における在村鉄砲について、鯖江藩の江戸屋敷について、鯖江藩江戸藩邸「御用部屋御旧記」・「小

堀記」について、鯖江藩主間部氏の参勤交代、『日本教育史資料「旧鯖江藩」編纂史料について、鯖江藩校の「試験史料」について、鯖江藩医官 西嶋俊庵の医学と蔵書、開成所独乙学世話心得 河合直吉の足跡、「鯖江藩日記」史料性の検討)／史料編(鯖江藩郷村目録、間部家譜、間部安房守文庫、旧鯖江藩学制沿革、鯖江藩の年中行事)

◆武田勝頼「死の真相」

—理慶尼記の謎を解く

松本憲和著 A・S・Nニルの学舎出版部 (〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-6-8 渋谷井上ビル5階 TEL03-5469-9880) 2008年11月 A5 261頁 2400円

前著『諏訪の八重姫登場』(2007年10月)にひきつづき、武田勝頼のもう一人の母「八重姫」と「理慶尼記」「武田勝頼滅亡記」との関係を通して勝頼の最期を探る。「理慶尼記」／「武田勝頼滅亡記」／「武田勝頼滅亡記」の作者を探る／武田勝頼、死の真相／資料「武田勝頼滅亡記」(朱書部分)

◆富士の神仏—吉田口登山道の彫像

富士吉田市歴史民俗博物館編 (〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田288-1 TEL0555-24-2411) 富士吉田市教育委員会刊 2008年6月 A4 79頁

富士吉田市歴史民俗博物館の企画展の図録。かつて富士山内に祀られながら、明治の廃仏毀釈により山を降りた仏像や関連資料を一堂に紹介する。曼荼羅／登山道の彫像／神社と別当寺の彫像／解説 富士山の彫像の信仰史概略(高橋晶子)／資料解説

◆白鳥 ふる里の山

上村俊邦著 (〒501-5122 岐阜県郡上市白鳥町為真) 2008年8月 B6 106頁 600円(白山文化博物館 TEL0575-85-2663)等で取扱い)

白山信仰関連の山々への自身の登頂体験をもとに郷土の山と歴史についてまとめた「白山

麓・石徹白郷シリーズ」の第9冊。町内の山を九頭竜川水系と長良川水系とに分けて、写真・地図とともにわかりやすく紹介する。九頭竜川水系「石徹白の山々」／長良川水系「白鳥の山々」／山についての考察

◆明清仏教研究資料—僧伝之部

長谷部幽蹊編著 黄檗文化研究所編 黄檗山萬福寺文華殿 (〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄三番割34 TEL0774-33-1199) 2008年11月 A4 454頁 5250円

明清時代に法化の活動に従事した禅門、教律緒流の師僧4700余名について、生没年・号・字・開法住山の寺庵・本貫・塔所を出典とともに記録し、僧名索引として編集された資料集。昭和62年以降、愛知学院大学禅研究所紀要に収載された旧版を補正する。明清仏教研究資料(僧伝之部)／付録 古祖—門法燈の譜

◆暮らしの風景—調査のなかで見たもの

白石太良著 (〒669-1204 兵庫県宝塚市長谷字道谷1-148 TEL0797-91-1372) 2008年11月 A5 164頁

日本人の心(温泉好きの日本人、日本らしさを求めて)／地名を追いかけて(新淀川周辺の消えた地名と生まれた地名、平成の大合併のなかで、災害と地名)／中国の人と風景(流通の変化のはざままで、お茶のある風景)／暮らしと観光(濟州島における観光民泊の課題、ラオスの観光開発におけるもう一つの選択肢、地域の暮らしと観光)／「ミニ独立国」の運動(ミニ独立国運動の変化と方向性、ミニ独立国「ツチノコ共和国」の観光開発)

◆近世律師の肖像—その姿とこころ

元興寺文化財研究所編・刊 (〒630-8392 奈良県奈良市中院町11 TEL0742-23-1376) 2008年10月 A4 36頁

元興寺文化財研究所の秋季特別展の図録。江戸時代に活躍した戒律を堅持した僧「律師」の肖像に焦点をあて、個性豊かな絵画・彫刻

をとおして師と弟子の心のさまに迫る。

◆南方熊楠・小畔四郎往復書簡(一) [明治35年～大正5年] 南方熊楠資料叢書 南方熊楠顕彰会編 南方熊楠顕彰館 (〒646-0035 和歌山県田辺市中屋敷町36 TEL0739-26-9909) 2008年6月 A5 92頁

南方熊楠と変形菌(真性粘菌)研究における協力者 小畔四郎との間にかわされた南方熊楠記念館所蔵の往復書簡のうち、明治35年(1902)から大正5年(1916)までの73通を翻刻収録する。南方熊楠・小畔四郎往復書簡 明治三十五年・三十六年・三十七年、大正三年・四年・五年／書簡一覧・詳細目次

◆備陽史探訪の会会報 備陽史探訪 復刻版 第103号～第140号

備陽史探訪の会編・刊 (〒720-0824 広島県福山市多治米町5-19-8 TEL084-953-6157)

2008年9月 A4 560頁

中国地方を中心に活発な活動をつづける備陽史探訪の会の会報『備陽史探訪』103号(2001年10月)～140号(2008年2月)の復刻版。71号から102号まで(総目次は創刊号から102号まで)を収録した復刻版(2003年8月刊)にひきつづいての刊行であり、巻末には今回収録号の総目次を掲載する。

◆石見浜田亀山城(四) 総集編

田村紘一著 日本古城友の会 (〒544-0005 大阪市生野区中川3-1-7 セントラルマンション2号館507号 尾原隆男方 TEL06-6753-1890) 2008年7月 A5 112頁

沿革 戦国期までの浜田／戦国期の浜田と大内家支配／毛利氏の石見進出と支配／毛利家の出雲平定と石見国退去／古田家の石見入国／城地選定／亀山城の築城／城の構造／城下町の成立／浜田城地目録／城主古田家とその断絶／前期松平周防守家の浜田入部／松平周防守家の先祖と歴代城主／本多中務大輔家の入封／松平周防守家の再封／松平周防守家の転封／松平右近将監家の入部と出自／松平右近将監家の歴代城主／長州征伐と石見口の戦い／浜田落城／落城後の松平家／伝説と参勤交代／浜田城天守閣とその消息／落城後の浜田城跡・注釈／城主系図／浜田城と城下年表／参考文献

◆お詫びと訂正

前号091掲載の『聴雪』の記事に誤りがありました。お詫びして訂正します。

6頁左 聴雪 12 2行目(訂正)

付 解説「湯殿山縁起」→「諸用永々控」

◆後記

『三澤勝衛著作集 風土の発見と創造』全4巻(農文協、2008.12-2009.3)が完結した。三澤は明治18年に長野県に生まれ、検定試験で地理科免許を取得、尋常高等小学校などを経て、亡くなる昭和12年まで長く県立諏訪中学校(現諏訪清陵高校。筆者の母校です)で教壇に立ち、徹底した「野外凝視」に基づき、独自の「風土論」を確立した。それは、「地域の力」による人づくりと風土産業振興の実践の学であった。食糧自給、自然エネルギー、地場産業など、地域ばかりか国の未来をも脅かす昨今の重要課題を、既に半世紀余も前に指摘し、方向性と方法論を提示している。著作集の編集に当たった木村信夫氏は、「時代がようやく三澤に追いついてきたのだろう。」(日本経済新聞、2009.4.17)と述べている。全巻では28,000円と高価であるが分売されており、第3巻「風土産業」(6,500円) 辺りからでも読んでいただければと思う。(飯澤)

地方史情報 092 2009年(平成21年)5月 発行 <http://www.iwata-shoin.co.jp>
定価0円(送料90円) 年間購読料 税込1000円(送料として) 振替口座00100-2-564137
発行所: 岩田書院 〒157-0062 東京都世田谷区南鳥山4-25-6-103 TEL03-3326-3757